

# なんてったって坂本町公園 ～坂本町公園こどもワークショップ～

EDO  
TOKYO  
FUTURE

2019.8.7 中央大学研究開発機構 グリーンインフラ研究室

## はじめに

坂本町公園は、明治 22 年（1889）に、東京市区改正設計にもとづき、東京における市街地小公園として、最初に整備された「由緒ある公園」です。市区改正設計における公園整備の目的は、衛生上の必要性、首都の美観の向上、非常時の避難地、交通の繁劇の緩和とされており、坂本町公園の整備は、これらの目的を実行に移した、画期的なものであったといえることができます。

設計者は、後に、日本全国の公園整備を手掛けることとなった長岡安平で、現在、残されている設計図には、色鮮やかに四季折々の梅、櫻、楓、そしてこれを取り囲むように常緑広葉樹の椎が描かれています。中央部は、新しい時代の息吹を感じさせる広々とした芝生であり、当時、街路樹として新しく導入されたエンジュが描かれています。エンジュは、シルクロードの起点である西安の都から、遙かヨーロッパの地まで植栽されており、時空を超えるスケールを有する樹木です。同時に、長岡安平の設計は、大変、きめがこまかく、園路沿いには江戸以来の園芸の伝統を踏まえた、七草（ななくさ）が配されました。

坂本町公園は、関東大震災、そして第二次世界大戦の空襲により壊滅しましたが、その都度、地域の皆さんと行政の努力により、再生され、不死鳥のごとく今日に継承されています。有為転変を繰り返す都市において、江戸・東京 400 年の伝統と文化が、今日なお生きており、この意味から、坂本町公園は近代日本を代表する「文化的景観」と言うことができます。

今回、阪本小学校の建て替えに伴い、坂本町公園の再整備が行われる予定となっております。2019 年 6 月 16 日、公園を最もよく使うこととなる子どもたちの夢を実現させたいという思いから、阪本小学校で、小学生が参加し、中央大学人間総合理工学科の学生がサポートを行い、「こどもワークショップ」が開催されました。

この報告書は、この「こどもワークショップ」の記録です。主催され、支援された方々は、以下の通りです。

主催：日本橋七の部連合町会

（兜町町会、茅場町一丁目町会、茅場町二・三丁目町会）

指導：中央大学研究開発機構 石川幹子

コーディネーター：一般社団法人まちふねみらい塾

協力：中央区環境土木部水とみどりの課、

中央区立阪本小学校、阪本こども未来塾、

平和不動産株式会社

皆様の夢を乗せて、未来の坂本町公園が、愛される、かけがえのない場となることを祈念いたします。

2019 年 8 月 7 日

中央大学研究開発機構教授  
元中央区都市計画審議会委員  
日本イコモス国内委員会理事  
石川 幹子

# まちと共に歩んできた坂本町公園

開園当時（明治 22 年 1889 年）：坂本町公園改良之図（長岡安平 設計）



みどりの図書館 東京グリーンアーカイヴズ 所蔵（日比谷公園内）



# - 目次 -

はじめに	2	V 坂本町公園のコンテクスト分析		5. D 班の計画案	29
まちと共に歩んできた坂本町公園	3	1. 公園の利用状況	14	5-1. こども達の理想像 (D 班)	29
関東大震災からの復興	4	2. 植栽	15	5-2. 理想の公園の模型 (D 班)	30
<b>I 目的・対象地</b>		<b>VI 坂本町公園ワークショップ</b>		5-3. 計画案 (D 班)	31
1. 目的	6	1. ワークショップの概要	16	5-4. まとめ (D 班)	32
2. 対象地	6	2. A 班の計画案	17	<b>VII 坂本町公園こどもワークショップ まとめ</b>	33
<b>II 坂本町公園の歴史の変遷</b>		2-1. こども達の理想像 (A 班)	17	<b>VIII 未来の坂本町公園へのメッセージ：実現に向けて</b>	
1. 明治期の坂本町公園	7	2-2. 理想の公園の模型 (A 班)	18	1. ワークショップに基づく意見の反映	34
2. 関東大震災後の坂本町公園	8	2-3. 計画案 (A 班)	19	2. 公園のイメージ	36
3. 平成期の坂本町公園	9	2-4. まとめ (A 班)	20	3. 植栽のイメージ	37
<b>III 坂本町公園周辺の歴史の変遷</b>	10	3. B 班の計画案	21	4. 花暦	41
<b>IV 坂本町公園周辺のコンテクスト 分析</b>		3-1. こども達の理想像 (B 班)	21	5. 集合写真	42
1. 土地利用	11	3-2. 理想の公園の模型 (B 班)	22	<b>IX 提言—日本イコモス国内委員会</b>	43
2. 自然条件 (水系・緑地)	12	3-3. 計画案 (B 班)	23	資料編	46
3. 社会条件 (小学校・人口)	13	3-4. まとめ (B 班)	24	1. 坂本町公園の土地利用 (江戸期、明治 期)	47
		4. C 班の計画案	25	2. 長岡安平について	48
		4-1. こども達の理想像 (C 班)	25	3. 阪本小学校新校舎の概要	50
		4-2. 理想の公園の模型 (C 班)	26	編集後記	52
		4-3. 計画案 (C 班)	27		
		4-4. まとめ (C 班)	28		

# I. 目的・対象地

## 1. 目的

この報告書は、明治の東京市区改正設計において、市街地に、最初に整備された坂本町公園の再整備に伴い、今後の公園のあり方について地域の皆さん、なかでも隣接する阪本小学校の子どもたちの、“こんな公園があったらいいな”という思いを形にするために開催されたワークショップの記録です。

ワークショップは、2019年6月16日に、中央区立阪本小学校仮設校舎において、阪本小学校の子どもたち、先生方、阪本こども未来塾、日本橋七の部連合町会、地元の企業、一般社団法人まちふねみらい塾、中央区役所、中央大学研究開発機構グリーンインフラ研究室、人間総合理工学科の学生が参加して開催されました。

## 2. 対象地

坂本町公園は、東京都中央区日本橋兜町に位置している区立公園です。坂本町公園の面積は約5009㎡です。現在、阪本小学校の仮校舎が建っていますが、新校舎の建設が進められており、竣工後、坂本町公園の再整備が予定されています。



写真 1-1 坂本町公園（赤枠）と建設中の阪本小学校（黄枠）

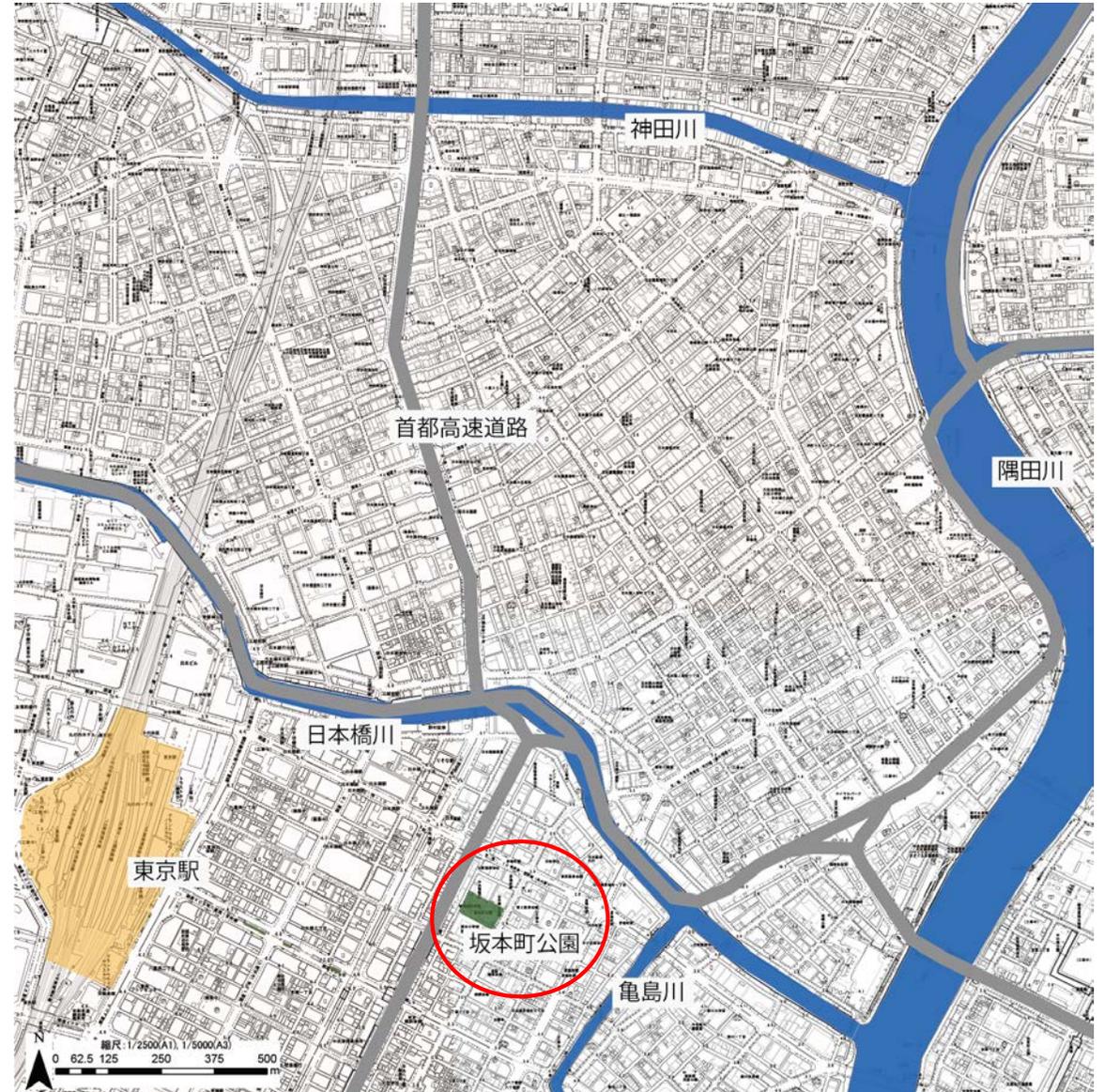


図 1-1 坂本町公園位置図

## II. 坂本町公園の歴史の変遷

### 1. 明治期の坂本町公園

坂本町公園は、明治18年(1885年)、東京市区改正審査会において、「小遊園」として提案され、明治22年(1889年)に決定告示され開園した「東京の市街地で最初に設けられた小公園」で、当初の面積は、約4,650坪(15,345㎡)でした。

東京市区改正設計における公園の考え方は、「衛生に関する巨益」、「首府たるの壮観」、「出火天変の際、人民回避の場所」、「魚蔬の市場として借用」、「車馬の輻集を開通」など、すなわち、①都市衛生、②首都の景観、③避難地、④朝夕の市場、⑤交通の緩和の役割を有するものとされました。

坂本町公園は、日本橋坂本町警視病院跡に整備されたもので、近代都市計画における公園の理念を、最初に実現に移した公園として特筆すべき公園です。公園の隣接地は、明治6年3月(1873年)に創設された「第一番官立奨学 阪本学校」で、当初より、小学校と一体として計画されたことがわかります。

公園の設計は、東京府土木掛だった長岡安平でした。長岡は、天保13年(1842年)肥前大村藩士の家に生まれ、同藩の楠本正隆に従い新政府に出仕し、楠本の東京府知事への就任(明治10年、1877年)に伴い、東京府に奉職しました。日本橋の市街地に小公園を整備するという当時でも、極めて斬新なプロジェクトは、楠本の理念の下に、東京を首都とするための壮大な計画の最初のステップであったといえることができます。

長岡は、後に日本全国の公園デザインのパイオニアとなっていくますが、坂本町公園の設計図には、江戸の伝統と近代を繋ぐ設計の考え方が、丁寧に描かれています。(図2-1参照)

公園の中央は、広々とした芝生広場で、中央には、あずまやを配した小さな丘が設けられており、山裾に、楓を配し芝生を眺めることができる構成となっています。広々とした芝生地には、当時、街路樹として導入されたエンジュが独立木として配植されています。四周を取り囲み植栽されているのは、桜、梅、楓などの四季を象徴する樹木で、椎やヒノキが深い緑陰を提供しています。園路にそって、きめ細かに描かれているのは、七草であり、江戸以来の草木を愛でる伝統が、近代公園に継承されていることがわかります。



図2-1 開園当時の坂本町公園(明治22年 1889年)

公園は、ガス燈により、明るく照らし出され、「売茶亭」と書かれた今日の「公園カフェ」に相当するものが計画されていたことは、興味深いものがあります。また、樹木・草本を管理、育成するために「栽培職」が置かれていました。



図2-2 開園当時の坂本町公園

## 2. 関東大震災後の坂本町公園

1923年の関東大震災により坂本町公園は全焼しました。帝都復興計画では、大公園として、浜町、隅田、錦糸町公園が整備され、土地区画整理事業の中で、52の小公園が創り出されました。坂本町公園は、新設の公園ではなく、既存の小公園の改良計画として再整備されましたが、阪本小学校と公園が隣接して既に整備されていたことは、帝都復興による公園整備に大きな影響を与えたものと考えられます。

帝都復興計画で設計を行ったのは、東京市公園課長だった井下清でした。52の小公園は、すべて小学校に隣接し整備され、コミュニティの拠点となるよう計画されました。

坂本町公園は、震災後、避難地、バラックとなっていました。昭和3年に新設計が完了し、同年12月に竣工し、再び市民に利用される公園に再生されました。区画整理事業との関連から、新しい坂本町公園は、南北に長かった敷地が東西に長い形になりました。

公園のデザインは、大小2つのエリアから構成されていました(図2-3、図2-4参照)。

電車通り(現在の平成通り)沿いは、広場で、公園入口には半月形の休憩所が設けられました。西側は、緑豊かな空間で、散水用を兼ねた池泉が設けられました。また、児童の遊び場としての配慮も行き届いており、ブランコ2基、ジャングルジム、砂場、滑り台が設けられました。入口は、全部で7ヵ所、小学校の校庭としての利用も行われており、地域に開かれた公園の考え方が基本となっています。

植栽された樹木は、31種92本(シイ、ツバキ、カシ、モッコク、モチノキ、モクセイ、サンゴジュ、マツ、インドスギ、エンジュ)、灌木は26種2300株(ヤツデ、アオキ、シャリンバイ、ヒイラギナンテン、マサキ、ソテツ、キャラボク、ツツジ類)でした。

こうして再生された坂本町公園でしたが、第二次世界大戦による空襲により、再び、廃塵に帰し、その後、再生されて今日に至ります。

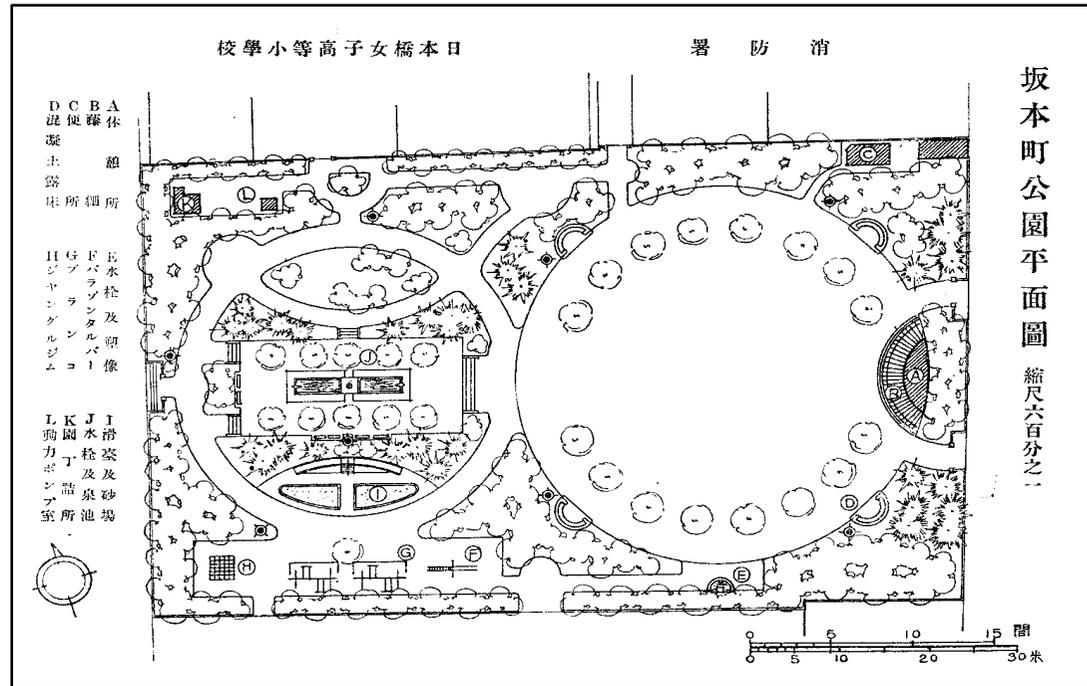


図2-3 帝都復興計画における坂本町公園計画図(昭和3年)

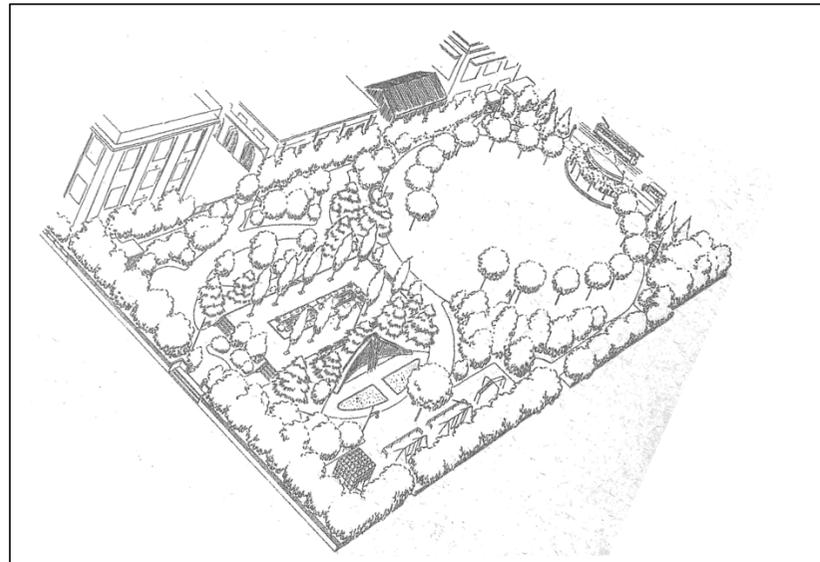


図2-4 帝都復興計画における坂本町公園パース



### Ⅲ. 坂本町公園周辺の歴史的変遷

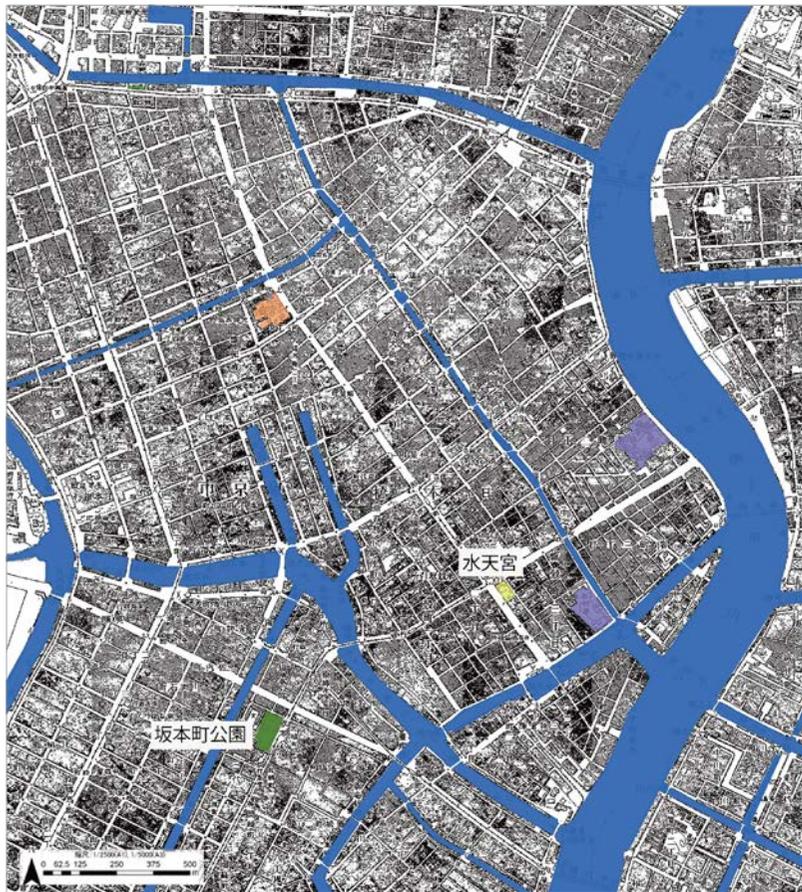


図 3-1 坂本町公園周辺図（明治 42 年 1909 年）

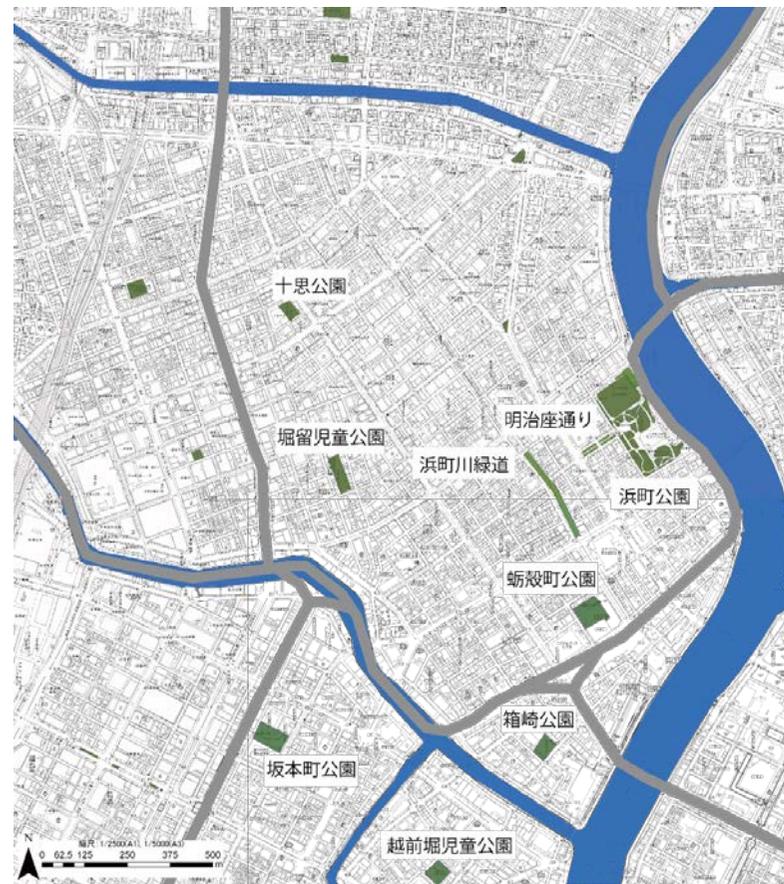


図 3-2 坂本町公園周辺図（令和元年 2019 年）

#### 凡例

- 川・池・用水路
- 高速道路
- 公園・緑地・緑道
- 寺院
- 神社
- 邸宅

図 3-1 は、明治 42 年（1909 年）の日本橋エリアの図面です。東に流れるのが隅田川、図面中央部を東西に流れるのが、日本橋川で、縦横に、浜町川、龍閑川、楓川、亀島川等が流れており、川沿いは河岸地として、物流を支えていました。当該地域におけるオープンスペースは、水天宮、隅田川沿いの大名屋敷に起源を有する邸宅地等で、坂本町公園は、このような稠密な市街地に新たに創り出された唯一の公共の空間であったことがわかります。

図 3-2 は、令和元年（2019 年）、110 年後の日本橋地区です。縦横に走っていた水路網は、埋め立てられ、日本橋川上部は高速道路となっています。公園緑地としては、関東大震災後の帝都復興事業で整備された隅田公園、十思公園等があり、浜町川が埋め立てられた跡地には緑道が整備されています。坂本町公園の西側に流れていた楓川は、暗渠化され、高速道路となっています。

## IV. 坂本町公園周辺のコンテキスト分析

### 1. 土地利用



図 4-1 坂本町公園周辺における土地利用図(2019年)

#### 凡例

 建物用地	 河川
 一般道路	 公園緑地
 首都高速道路	 社寺
 鉄道・駅舎	 学校

日本橋地区は、関東大震災後の震災復興区画整理事業において整備が行われ、今日の市街地の骨格となっている道路ネットワークが形成されました。1964年の東京五輪開催決定を機に建設された首都高速都心環状線が、この道路ネットワークに加わり、道路と道路、道路と河川の立体交差がつくり出されています。

図 4-1 は、土地利用の現況を示したものです。公園緑地等オープンスペースは少なく、大部分を建物用地が占めていることが分かります。用途地域についても、日本橋地域は全域、建蔽率 80% の商業地域であり、百貨店等昔からの商業施設や、日本銀行本店や東京証券取引所等金融機関が、数多く立地しています。また、都市再生特区に指定されて

いることから、容積率の緩和により、大規模な市街地開発事業が進展しています。公園緑地は、坂本町公園、小網町児童遊園、越前堀児童公園、箱崎公園、学校は昭和幼稚園・城東小学校、阪本幼稚園・阪本小学校、明正小学校、有馬幼稚園・有馬小学校が立地しています。帝都復興計画で整備された小公園は耐震強度を高めた小学校に隣接し、日常的なコミュニティ形成といった社会教育や、公園を通じた地域住民の統合が計画的に織り込まれている他、“地域の防災拠点の役割を有する”という構想のもと設置されており、学校用地と隣接して設置されている公園はこの地域だけでも 3 か所、整備が行われました。また、水天宮などの社寺が、立地しています。

## 2. 自然条件（水系・緑地）



図 4-2 坂本町公園周辺における自然的環境

### 凡例



河川



首都高速道路



公園緑地

坂本町公園周辺には、まとまった公園緑地は存在していません。坂本町公園から一番近い公園緑地は、500m離れた小網町児童遊園ですが、この公園には日本橋川を渡っていかねばならず、周辺の小学生が遊べる身近な公園は実質、坂本町公園のみです。次に近い越前掘児童遊園は坂本町公園から640mの距離に位置しています。この公園も亀島川を渡った先にある公園であり、小学生が歩いて行くには厳しい位置にあります。

坂本町公園周辺には、日本橋川と亀島川が流れており、この2つの川は隅田川に合流しています。日本橋川は千代田区三崎町三丁目三崎

橋で神田川から分岐し南流、皇居北側を経て中央区へ入り、新川一丁目豊海橋下手で隅田川に注いでいる川で、延長は約4.5km、現在、ほぼ全域に渡り、首都高速道路の高架下を流れています。川面が開けるのは日本橋を通過後、亀島川が分岐してから河口に至る僅か500mの区間となっています。亀島川は中央区日本橋茅場町付近で日本橋から分岐し、八丁堀付近を経由し、隅田川に注ぎます。

日本橋川上空の首都高速道路都心環状線の一部が、2020年の東京オリンピック開催後、地下化されることが都市計画決定され、今後、当該区域の環境は大きな転換を遂げていくものと予想されます。

### 3. 社会条件（小学校・人口）

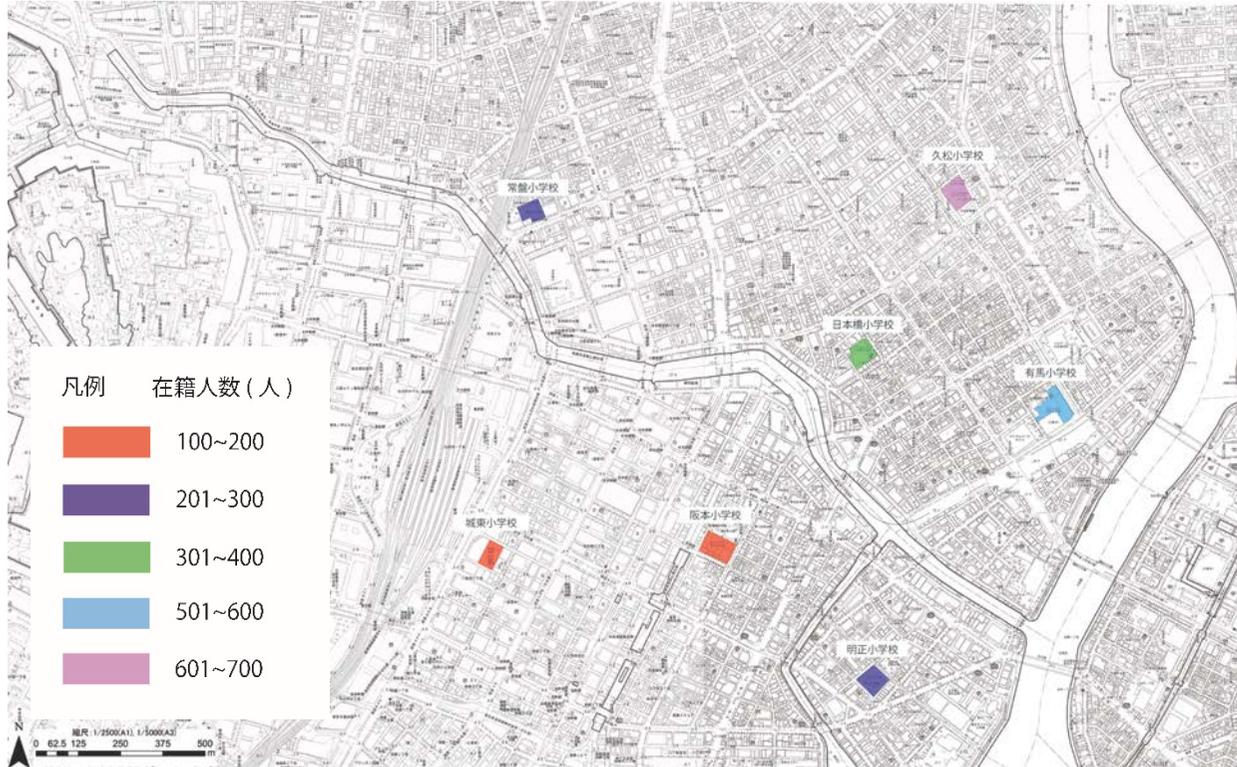


図 4-3 日本橋地区の小学校の在籍人数

銀座、日本橋や築地といった街並みを誇る中央区は、行政の子育て支援制度も充実していることから、ファミリー世帯に非常に人気の高い区となっています。中央区には歴史・伝統・文化、そして手厚い教育制度を整えた魅力的な小学校が多く存在しています。(図 4-3)

阪本小学校は、日本における初等教育が開始された明治 5 年の「学制布告」により、明治 6 年 3 月、「第一大学区、第一中学区、第一番官立小学 阪本学校」として創設された学校で、地域では、江戸期から継承されてきた伝統や文化が受け継がれています。

ひょうたん型であった日本の人口ピラミッドはつぼ型へと変化を遂げました。中央区の人口ピラミッドにおいても同様な傾向が見られ、若い年齢ほど人口は減少しており、少子化の影響が顕著に現れていることがわかります。(図 4-4、図 4-5 参照)

都市化の進行に伴い、中央区の人口は減少に転じましたが、区の定住人口回復施策(住環境の整備など)が実を結び、1998 年に 45 年ぶりに人口は増加に転じ、現在も増加を続けています。

年少人口(0~14 歳)は 20 年間で約 2 倍に増加を遂げました。年少人口の他、生産年齢人口(15~64 歳)や高齢者人口(65 歳以上)においても各値は 20 年前と比べて倍増していることが確認できます。

その一方、区内における高齢化率は 23 区で最も低い水準ですが、高齢者人口は着実に増加しており、子育て支援とともに高齢者に対する支援制度の充実が必要不可欠と考えます。

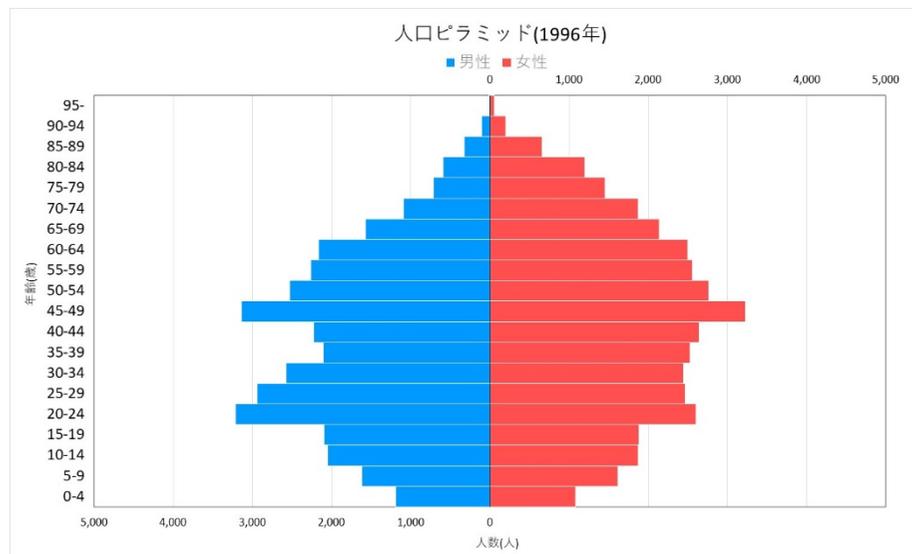


図 4-4 中央区の人口ピラミッド (1996 年)

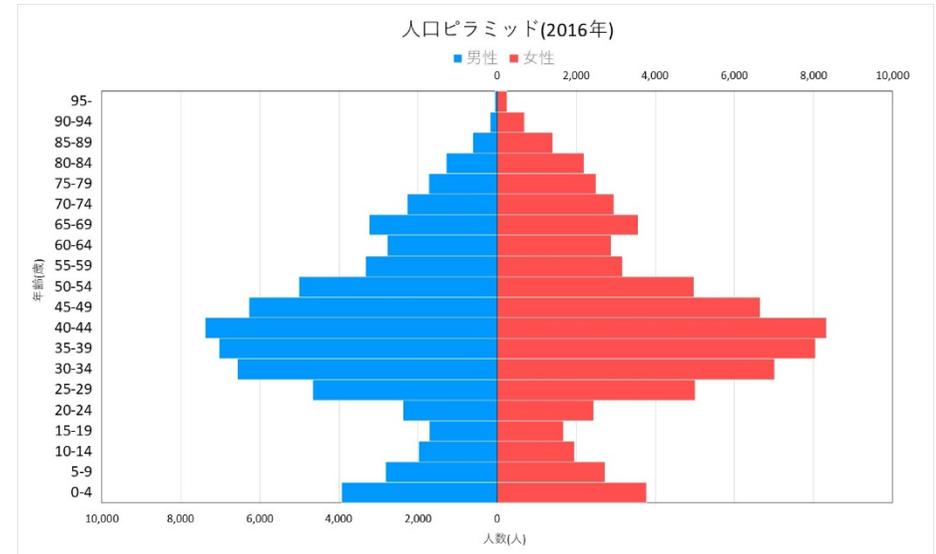


図 4-5 中央区の人口ピラミッド (2016 年)

## V. 坂本町公園のコンテキスト分析

### 1. 公園の利用状況

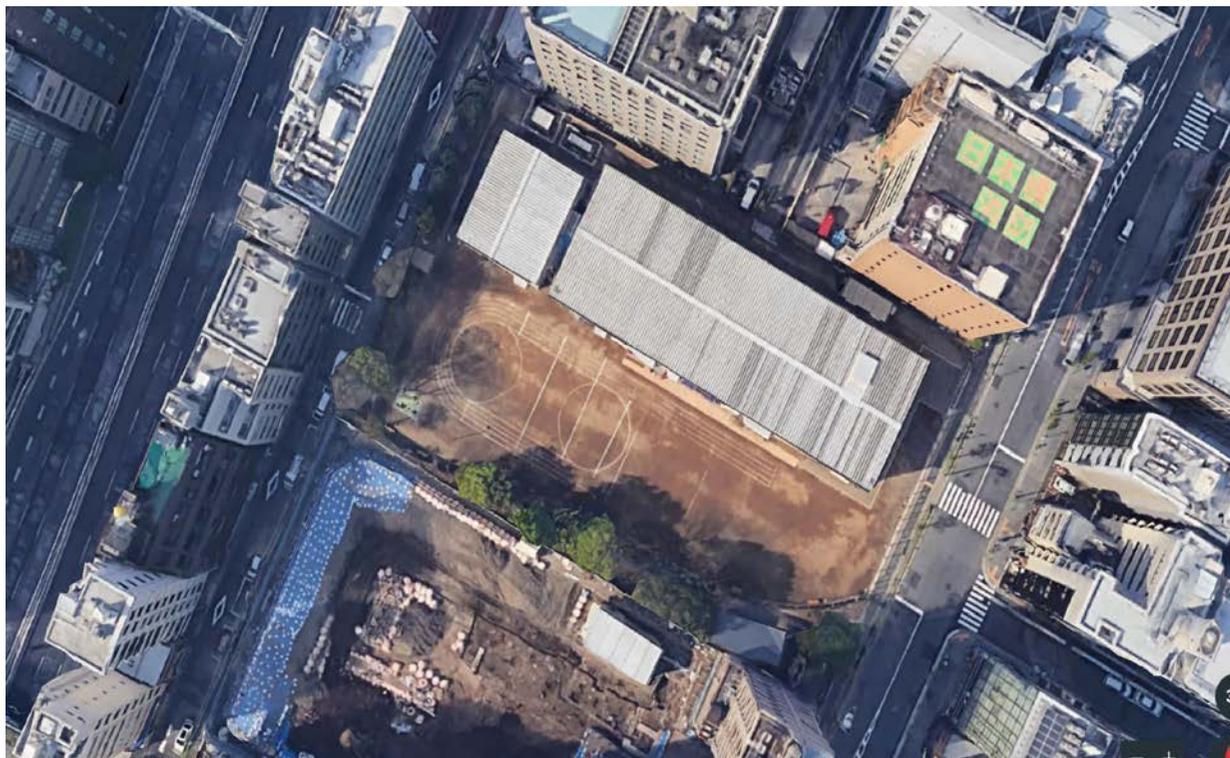


写真 5-1 現在の坂本町公園航空写真



写真 5-2 現在の坂本町公園



写真 5-3 まちかど資料館

坂本町公園は、明治 22 年（1889 年）に東京における最初の市街地小公園として開園し、斬新な芝生広場と築山を有する小公園として整備されました。しかし、関東大震災によって全焼し、震災後は避難民収容施設、仮校舎等の敷地に使用され、非常時における都市公園の重要な役割を果たしました。その後、復興土地区画整理事業が行われ、現在の位置となり、小学校と一体的に利用できる公園として、遊具なども整備されました。第二次世界大戦時の東京大空襲によって再び焼失、戦後、戦災者用仮設住宅の敷地として使用されましたが、その後、児童公園として様々な改良が行われ、現在の公園となりました。

現在、坂本町公園には、中央区立城東・阪本小学校の建て替えに伴う仮設校舎が建てられており、公園は校庭として利用されています。坂本町公園に隣接し、兜町・茅場町まちかど展示館が整備されており、御神酒所として祭りの拠点となっています。ここでは、この地域一帯の伝統文化財、資料を見ることができます。地元の神輿 4 基と山車 1 基、そして江戸町火消し「百組」伝統の写真や革半纏などが展示されています。神輿には町名にもなっている兜が鳳凰の代わりにあしらわれています。また、祭りゆかりの深い町火消しにまつわる

品々も展示されています。展示館は通年で開館されており、8 時半から 20 時まで入ることができます。

坂本町公園に残存している樹木は、全部で 27 本、主な樹木は槐（えんじゅ）や珊瑚樹（さんごじゅ）、スダジイ、マテバシイ等となっています。他にも桜やイロハモミジ、トウネズミモチなどが少数植えられています。移植により、苗圃で保管されている樹木は、イチョウや金木犀（キンモクセイ）、桜、椿、ブッドレアなどとなっています。

## 2. 植栽

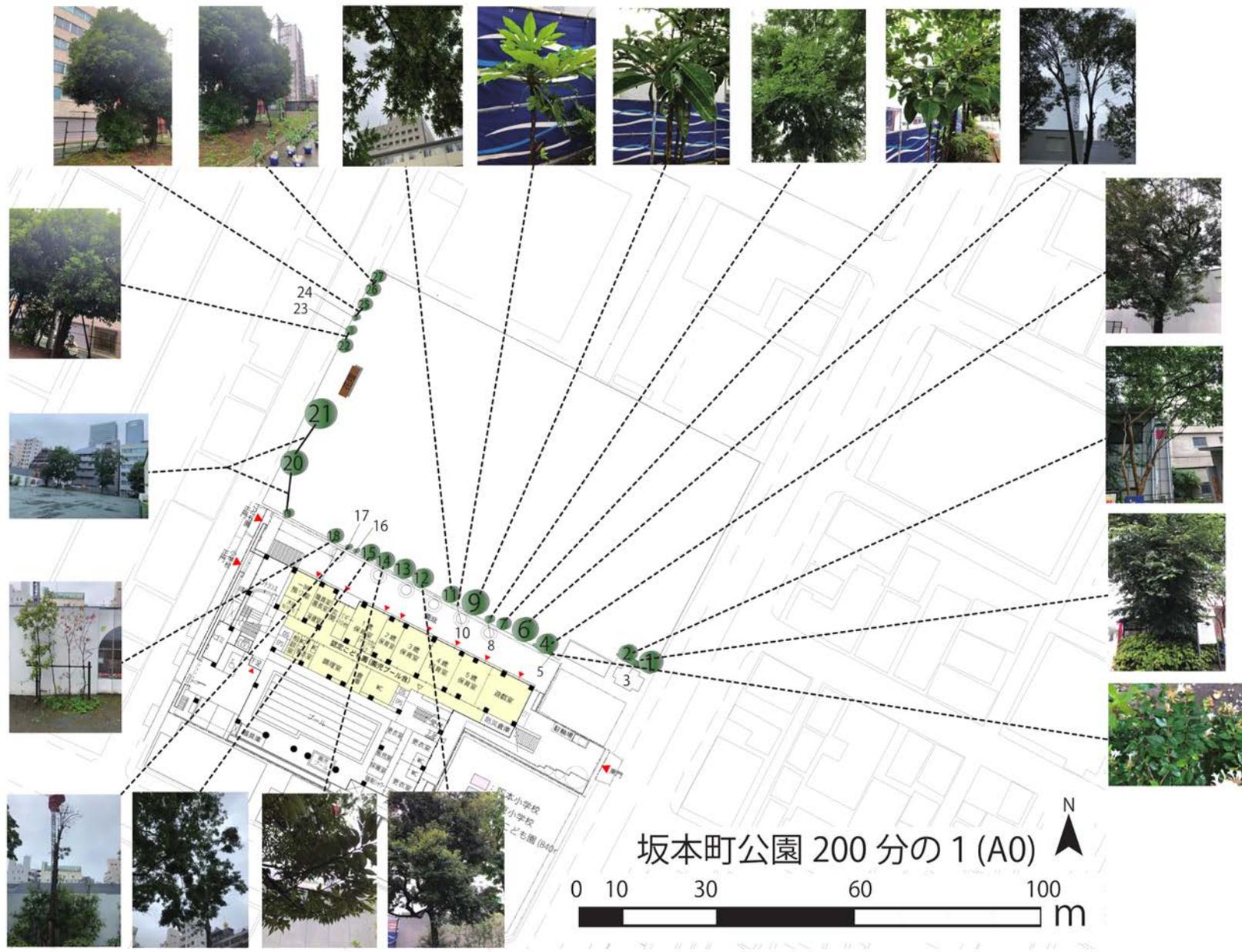


表 5-1 植栽リスト

番号	樹木名
1	ソメイヨシノ
2	サルスベリ
3	オオムラサキ
4	スタジイ
5	ドウダンツツジ
6	エンジュ
7	トウネズミモチ
8	サンゴジュ
9	エンジュ
10	ヤツデ
11	イロハモミジ
12	スタジイ
13	トチノキ
14	スタジイ
15	ヤマモミジ
16	サンゴジュ
17	サンゴジュ
18	ニセアカシア
19	サンゴジュ
20	サンゴジュ
21	エンジュ
22	シラカシ
23	マテバシイ
24	マテバシイ
25	マテバシイ
26	マテバシイ
27	マテバシイ

図 5-1 坂本町公園 植栽図

## VI. 坂本町公園ワークショップ

### 1. ワークショップの概要

2019年6月16日、中央区立城東・阪本小学校において、阪本小学校に通う小学生(1年生から6年生)と中央大学理工学部人間総合理工学科(学部1年、2年、3年、グリーンインフラ研究室)によるワークショップが開催されました。今回のワークショップの目的は、坂本町公園の「目指すべき将来像」を子ども達の視点から考え、形にすることでした。主役は子ども達であり、中央大学の学生は、子ども達が公園の将来像に対し、考えていることや思っていることを具体的に表現できるよう、サポートする役割に徹し、ワークショップに参加しました。

ワークショップでは、小学生と学生が4つのグループに分かれ、グループワークを行いました。今回のワークショップは、「ステージ1」と「ステージ2」で構成されており、「ステージ1」では小学生に「こんな公園がいい」ということを、自由に、紙に表現してもらいました。その後、学生が司会進行役を担当し、「ステージ1」で考えてもらった小学生のアイデアを基に、模型作りに必要な素材作りのサポートをしました。

表6-1 ワークショップのタイムスケジュール

12:00~12:15	運営関係者集合	オリエンテーション
12:15~12:45	会場設営	
12:45~13:30	公園計画地(現仮設校舎周辺)視察	開場準備
	司会進行	阿部 彰 一般社団法人まちふねみらい塾
13:30~13:35	開催の挨拶 PTA会長または副会長	
13:35~13:47	WSのヒント	石川 幹子 中央大学研究開発機構教授
13:47~13:55	WSの進め方 阿部 彰	
13:55~14:50	WS 参加者全員(小グループ形式)	
14:50~15:20	グループごとの発表 6分/グループ(子どもグループのみ)	
15:20~15:30	講評	石川 幹子
15:30~16:00	閉会	
16:00	現状復旧完了	

このようなプロセスを通して、「こうしたい」という子ども達のアイディアが、徐々に深まっていき、子ども達が思い描く坂本町公園の未来像を具体的に表現する模型作りを行う「ステージ2」へと進みました。2つのステージ終了時に各班による発表が行われました。坂本町公園の現状・魅力・課題、小学生が日頃感じている公園に求めるものや各班の子ども達が思い描く坂本町公園の「目指すべき将来像」が、自由な発想で語られ、互いに理解を深め合う場となりました。

今回のワークショップを通し、子ども達から、「模型作りが楽しかった」、「またこのワークショップに参加したい」といった声を聞くことができました。子ども達の自然に対する意識や、都会のオアシスとして在るべき公園の多様な魅力が引き出されました。そしてまちづくりに対する興味、関心を引き出すことができたワークショップになったのではないかと感じています。

「子ども達は自然を欲している」、これは校長先生のお言葉です。自然と触れ合うことができる場所が減っていることは、まぎれもない事実です。緑を通じて人々の暮らしの場を豊かにしていき、多くの人々に笑顔を届ける公園の意義を改めて実感する機会になりました。



写真 6-1 グループワーク風景①



写真 6-2 グループワーク風景②



写真 6-3 グループワーク風景③

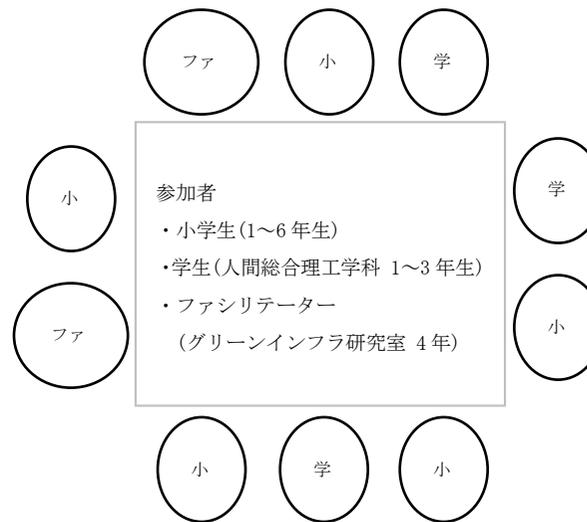


図 6-1 各テーブルの内訳

## 2. A 班の計画案

### 2-1 こども達の理想像 (A 班)

メンバー 5年生: Oくん、Kくん、Sさん、Hくん 6年生: Sさん、Yさん

大学生: 川島和馬 (4年)、松本彩 (3年)、韓煜明 (2年)、小泉文佳 (2年)

こども達が、一人一人考えた理想の公園を紹介します。

図6-2では公園の地形が等高線を用いて表現されており、小高い丘が2つ見受けられます。丘の上には水辺空間と広場を創造し夏には水の中で遊びたいという気持ちが読み取れます。また芝生空間も表現されており、寝転んでくつろげる空間が欲しいことがわかります。

図6-3では博物館などの教養施設を公園内に設置していることが特徴的で、耐震・免震といった表現から防災対策における公園の役割まで考えられています。植栽については周縁部に四季折々の植物を配置

し、季節の変化を楽しむことができる公園が提案されています。

図6-4ではジャブジャブ池や噴水などの水辺空間が特徴的であり、東屋の二階部分にはしごで登ることができるようになっており、空間を上手に活用していく提案がなされており、噴水の土台には坂本町公園の歴史プレートを埋め込むなどのアイデアが出されました。

図6-5では芝生広場、池、砂場やブランコなどの遊具のバランスが取れた公園が描かれ、桜をまとまった場所に植栽し、その周辺にはお花見の時に人気となりそうなベンチがいくつか配置されており、

お祭りなどイベントで活用しやすい公園となっています。

図6-6では芝生空間でくつろぎながら桜を鑑賞することができることや、砂場などの遊び場や、花壇を設置して花のお世話をしたいという気持ちが読み取れます。蝶や鳥なども描かれていることから生物の生息地ともなるような自然があふれる公園となっています。

図6-7では様々な遊具や砂場、ジャブジャブ池や噴水などの水辺空間、さらにピオトープといった生物多様性にも配慮しており、休憩施設、広場、遊具、植栽などのバランスが取れた公園となっています。

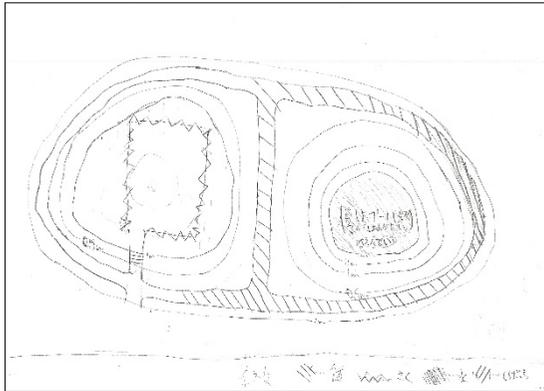


図6-2 A班の子供たちが描いてくれた絵①



図6-4 A班の子供たちが描いてくれた絵③



図6-6 A班の子供たちが描いてくれた絵⑤

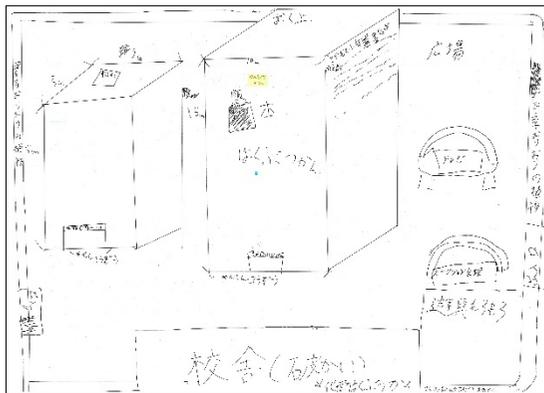


図6-3 A班の子供たちが描いてくれた絵②



図6-5 A班の子供たちが描いてくれた絵④

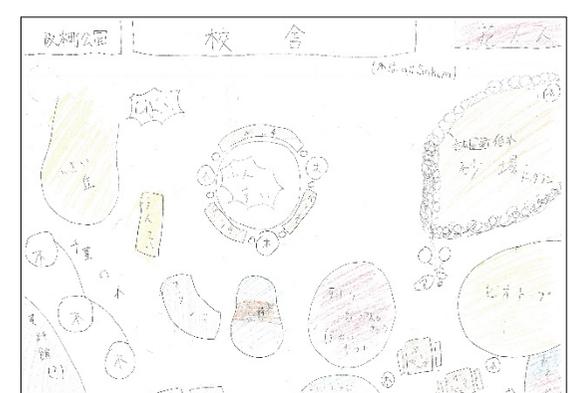


図6-7 A班の子供たちが描いてくれた絵⑥

2-2 理想の公園の模型 (A班)



写真 6-4 模型の全体像



写真 6-7 立体的な模型



写真 6-8 東屋からの景色



写真 6-5 地下の資料館と生物館



写真 6-6 砂場やオブジェ

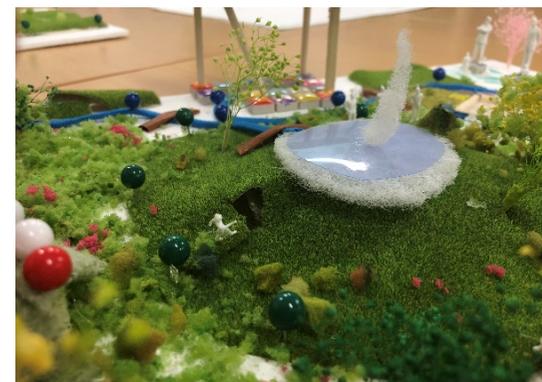


写真 6-9 噴水広場

## 2-3 計画案 (A班)



図 6-8 自然と未来の混合公園 平面図

模型はメンバー全員で協力して製作を行いました。A班ではまず、公園を地上層と地下層の二層構造とする意見が生まれ、小さな公園の空間を効率的に活用する案となりました。地上層では公園を、ぐるっと一周するように小川が流れ、四季折々の植物が植栽されており、公園を小川沿いに歩くことで季節の花や、小川に住む生物の変化を楽しむことが出来るようになっていきます。

公園の中心は芝生広場となっており、中心へ向けて少し盛り上がりをつけることで緩やかな傾斜となっています。その頂上には大きな噴水が設けられ、公園を巡る小川はこの噴水から水が供給される仕組みになっています。噴水の土台の部分には坂本町公園の歴史を語るプレ

ートが埋め込まれ、保管されている像とともに歴史を語り継いでいきます。小川の終着点は東屋の下の池であり、水辺で憩える休憩スペースとなっています。また、この東屋は屋根の部分にはしごで登ることができ、公園を上から眺めることができます。安全のためにガラスで透明な柵を設ける工夫もされ、小さな子どもでも安全に景観を楽しむことが出来るようになっていきます。

公園の東側には小さな山がつくられ、彩りのある花の咲く低木などが植栽されています。子ども達はこの山の茂みや高低差を用いた遊びができると考えています。

公園の西側は砂場や登って遊ぶことができる球体のオブジェなどが

設置されたあそびの空間となっています。砂場にもきれいな色タイルを用いるなど、アートを取り入れており、あそびの創造力を思う存分引き出すような工夫がされています。

西側南部は桜の広場となっており、春の花見や、お祭りの際などにも利用することができる多目的広場となっています。公園を見渡せるような台もあり、大人に見守っていて欲しいという思いも込められています。公園の南側は学校からオープンな芝生空間につながるようになっており、放課後、学校から公園にすぐに遊びに行けるような空間となっています。図6-8は、子ども達の模型を写真にとり、それをスキャンし、忠実にデジタル化したものです。

## 2-4 まとめ（A班）「自然と未来の混合公園」

こども達は理想の公園づくりに興味津々で、とても熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。5、6年生の混合チームでしたが様々なアイデアが、とめどなく溢れ、発表では6年生がリードをして全員が自分たちの作った公園を誇らしげに説明している様子が印象的でした。高学年ということもあり、坂本町公園の歴史などもしっかりと勉強をしてワークショップに臨んでいたことは、立派であると思いました。

A班の公園で特徴的なのは建築物を地上に作るのではなく、地下に埋めて、空間を上手く活用していることです。資料館には坂本町公園の歴史的資料が保管、展示され、地域の方々に開放されます。公園がこども達の遊びだけでなく、学びの場ともなり得ることを示唆しています。こども達はそれぞれが重要な視点をもっており、小川などの自然的要素や休憩所などの実用的要素、四季折々の植物による彩りなどの景観的要素、資料館・生物館などの文化・歴史的要素をうまく取り入れた公園になったことから「自然と未来の混合公園」という名称になりました。

将来、公園を利用するこども達の様々な視点を育むためには、多くの要素を取り入れつつも、一体感のある公園となることが理想であると考えます。ワークショップの後の感想を聞いてみると、自分たちの考えた公園の要素が少しでも本物になって欲しいと願っていました。



写真 6-11 A班作業風景



写真 6-10 理想の公園の絵を描く様子



写真 6-12 模型製作の様子



写真 6-13 模型製作の様子

### 3. B班の計画案

#### 3-1 こども達の理想像 (B班)

メンバー 6年生：Sくん 3年生：Iくん 2年生H.Yさん、Yさん 1年生：Wさん 3歳：Wくん  
 大学生：長塚瑞穂（4年）、黒島綜一郎（3年）、中山知香（2年）、熊谷春輝（1年）

H.Yさん

遊具として、砂場につながる滑り台と普通の滑り台、ブランコと多くの遊具を置いて、こども達が遊べる空間を作りました。また、他の公園ではみられないトランポリンをつくり、みんながいろんな遊具で楽しめるようにしました。さらに、コンビニをつくり、暑いときには飲み物を飲み、お菓子を食べたくなれば買える場所を作りました。

Yさん

みんなが入りたくなる公園になるように木でできた公園の門を作りました。また、滑り台、ぶらんこの二つを置くことでこどもが十分に楽しめるように考えました。木と木の間にハンモックをつくり、公園を利用する人が自然のなかで寝転ぶことができる場所を作りました。

Sくん

広い野球場を作って、みんなが広々と走り回ることができる空間を作りました。また、25メートルプールを配置して、公園を訪れた人が運動も楽しむことのできる公園としました。さらに、「自由の家」という独自のアイデアを出し、子どもたちが中で、遊べる秘密基地を作り、公園の中に室内で楽しむことのできる施設を作りました。

Iくん

公園全面を芝生にし、こどもが自由に走り回ることのできる空間にしました。また、公園利用者が近いトイレを利用できるように2か所設置したり、より便利に来られるように、駅につながる階段をつくるという工夫をしました。

Wくん

「しばふこうえん」というタイトルで絵を描きました。みんなが走り回ることができるような芝生をメインに、いろんな色を使って木や川を表現して、公園に来てくれた人が楽しめるような公園を考えました。また、トイレや冬の時期も楽しめるようにヒーターを作って、利用者の利便性を確保しました。

Wさん

はじめに小学校を書き、小学校の隣にどんなものがあつたらいいか考えました。そして、公園利用者のためのトイレを作りました。トイレの外観は、子どもたちが入りやすいように、カラフルにするという提案をしました。

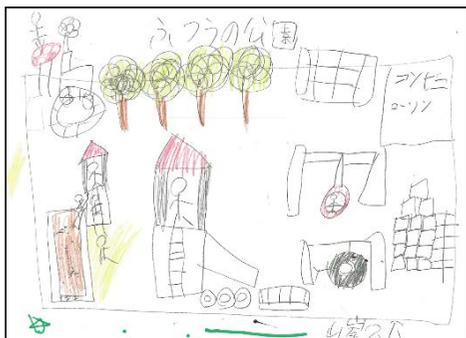


図 6-9 B班の子供たちが描いてくれた絵①

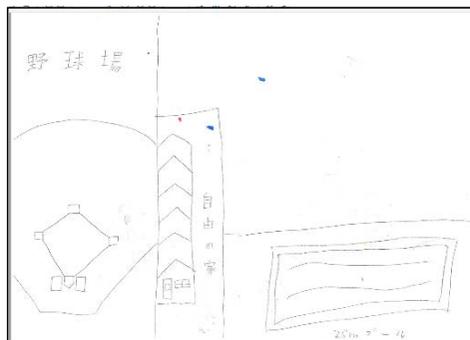


図 6-11 B班の子供たちが描いてくれた絵③

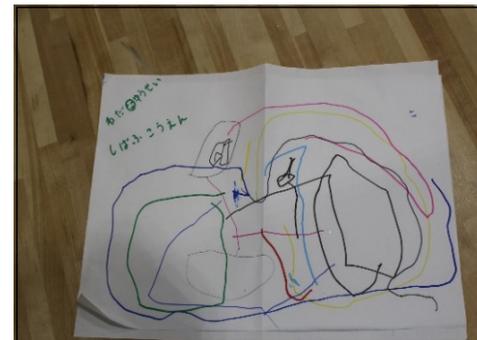


図 6-13 B班の子供たちが描いてくれた絵⑤

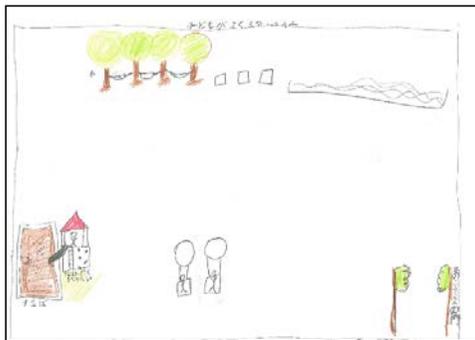


図 6-10 B班の子供たちが描いてくれた絵②



図 6-12 B班の子供たちが描いてくれた絵④

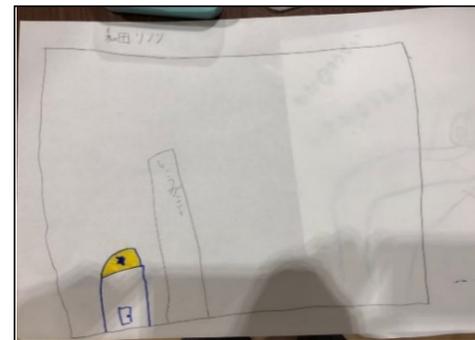


図 6-14 B班の子供たちが描いてくれた絵⑥

3-2 理想の公園の模型 (B班)

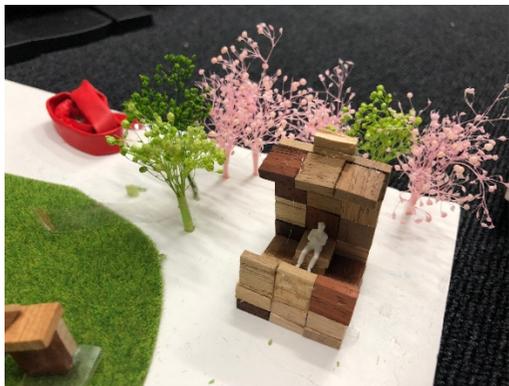


写真 6-14 ベンチ



写真 6-15 水辺



写真 6-16 芝生広場



写真 6-17 自由の家



写真 6-18 トランポリン



写真 6-19 B班の模型写真

### 3-3 計画案 (B班)

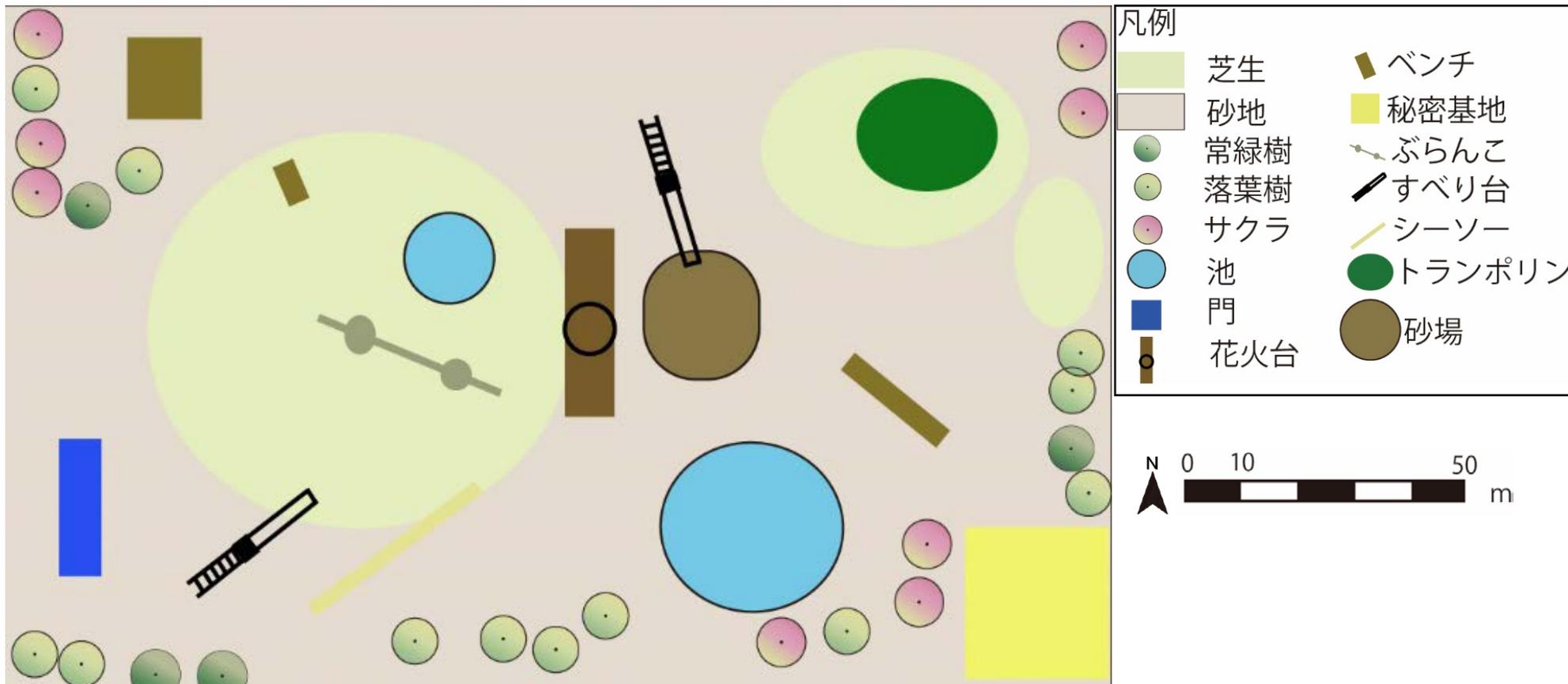


図 6-15 B班の模型を基にした平面図

こども達が紙に描いてくれた絵を基に、公園にあったらいいものをそれぞれ作っていました。タイトルは、「にぎやか公園」。その名の通り、こども達が考えてくれた提案が、公園にあふれるにぎやかな公園を作ることができました。

入り口は両側の通りに面したところに二つあります。1つは、桜でできた木の門、もう1つは石でできた門で、この門をくぐって公園の中に入ることができます。公園に入りたくするような入り口をこども達が考えてくれました。

芝生エリアの周辺には、遊具が、たくさんあります。ブランコ、シーソー、トランポリンがあります。また、滑り台は二つあり、砂場につながる滑り台と芝生につながる滑り台があります。滑った後に、砂

場、芝生と、他の所に行ける楽しさを加えています。みんなが遊びたいと思う遊具を考え、たくさん作りました。また、水飲み場と水道もあるため、好きな時に水を飲み、手を洗うことができます。さらに、このエリアには、花火の発射台があります。公園を、花火大会を行うイベントの場にすることができます。花火台を作ることで、夏のイベントの場など季節のイベントを行う場所として活用できると思います。すぐそばの芝生に座って、花火を鑑賞したり、多目的広場となります。

また、水辺のエリアがあり、みんなが水にふれて遊べるような場を作りました。池の周り、半周は水草が植えられているため、水辺生物の生息地となることも期待できます。

さらに、「自由の家」というみんなが室内で遊ぶことのできる家が

あります。家は、カラフルな石でできており、一目見たら入りたくなるような家になっています。訪れた人が自由に楽しめるような空間となっています。外で遊ぶのとは、また違った遊びが楽しむことができると思います。

公園のところどころには木が植えられ、涼しさが感じられます。常緑樹、落葉樹とさまざまな樹木を植えられています。特に、さくらは、お花見を楽しむことができ、その近くには、屋根でできたベンチ、五人がけのベンチなどゆっくり過ごすことのできる空間があります。木と木の間は、ハンモックでつながれているところもあり、自然を感じられる中で寝転がりながら、休むことのできる場も設けました。図6-15は、こども達の模型を写真にとり、それをスキャンし、忠実にデジタル化したものです。

### 3-4 まとめ (B班) 「にぎやか公園」

最初にそれぞれ描いた絵を基にして、どんなものがあつたらいいか話しをしながら、公園の中に楽しめる要素をたくさんつくっていききました。自分の好きな遊びや場所を想像して、思い思いの絵を描くことで、夢がふくらみました。その際、公園周辺の環境を踏まえうえで、どんな要素が必要か考える様子も見られました。

その後の話し合いでは、子どもたちが「こういうあそびがしたい!」という案をたくさん出してきて、子どもたちが「それいいね!」「こういうのもいいと思う!」と話しながら、公園の形が、次第に創り出されていきました。

話し合いで出た意見を踏まえて、こども達が、自分が公園に欲しいものを様々な道具を使って、考え、工夫をしながら、作っていくことができました。道具をみて、「これは何をするのに使えるかな?」と考えながら作り上げていた様子が多くみられました。それぞれが、いきいきと楽しみながら、表現をしていました。

そのため、B班は池や樹木などの自然にふれることができる場所の他、すべり台、ブランコをはじめとした多くの遊具が設置され、多様な遊びをすることができる公園となりました。

B班では、こども達がたくさんの意見を出し、積極的に模型で思ったものを形にして表現してくれた結果、参加してくれた子どもたちの夢がたくさんつまった公園にすることができました。タイトルは「にぎやか公園」です。互いに協力しながら、多くの要素がつまっているひとつの公園を形にすることができました。



写真 6-21 B班作業風景



写真 6-20 B班のワークショップの様子①



写真 6-22 B班のワークショップの様子②



写真 6-23 B班のワークショップの様子③

## 4. C班の計画案

### 4-1 こども達の理想像 (C班)

メンバー 2年生: Oくん 3年生: Kちゃん、Sくん

大学生: 横山紗英 (4年)、寺嶋太一 (4年)、井上真由子 (2年)、山平梨央 (2年)

はじめに図6-16について、Sくんが個人ワークで描いてくれた『スポーツ公園』ではみんなが公園で遊べるようにと、うんていやターザンロープの他にサッカー場を提案してくれました。Sくんは芝生を構成する1本1本の草を丁寧に描き、それが公園全体を覆っていて、この公園は寝転んだりスポーツをしたり、とみんなが過ごしやすい公園となっていると言っていました。また、ターザンロープは30m、と具体的な長さまで考えており、非常に分かりやすい理想の公園となりました。

次に、図6-17について、“どんな公園がいいかな?”という質問に対しKちゃんは誰よりもじっくりと時間をかけて考えてから、描き始めてくれました。オレンジ色のブランコを、そしてその隣に黄色の鉄棒を丁寧に描いていました。遊具はブランコと鉄棒の2つにし、次には、空に、黄色の綺麗な蝶々が飛んでいる様子を、こちらも何度も書き直しながら完成させていきました。最後には桜の木を1本描き、公園のタイトルを「自ぜん公園」と提案してくれました。

最後に図6-18について、Oくんが考えてくれた「カラフル公園」の特徴は、カラフルな遊具と大きく表現された自然です。遊具はカラフルで大きなブランコと滑り台を描き、自然に関しては、真っ青な空や真っ赤な太陽、公園内を照らす太陽光や吹き抜ける風、そして大きな桜の木と、舞い散る花びらが印象的です。色鉛筆の使い方が非常に器用で、背丈の低い花々にも、さまざまに色をつけ、小さな蟻やダンゴムシ等の生物も表現してくれました。

私たち学生も、3人それぞれの作業をサポートする中で、公園の持つ豊かな可能性を子ども達と一緒に実感することができました。



図6-17 C班の子供たちが描いてくれた絵①

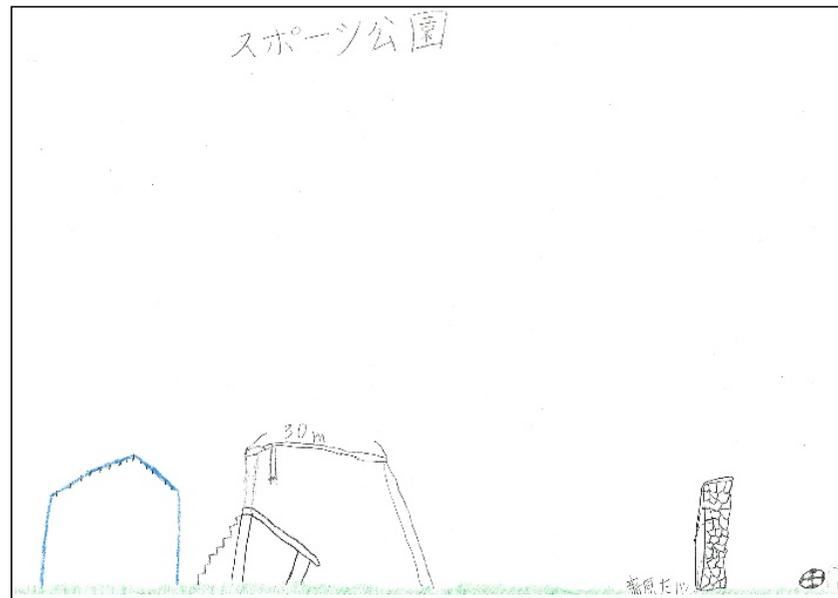


図6-16 C班の子供たちが描いてくれた絵②



図6-18 C班の子供たちが描いてくれた絵③

4-2 理想の公園の模型 (C班)



写真 6-24 模型の全体像



写真 6-27 サッカーコート



写真 6-28 さくら並木

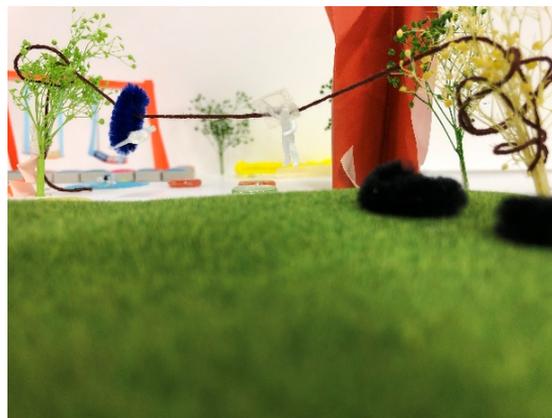


写真 6-25 ターザンロープ



写真 6-26 プランコと魚のいる池



写真 6-29 砂場

### 4-3 計画案 (C班)

まず、公園に欲しいものを個々に絵に描くという作業を行いました。次に、それぞれの出してくれた公園要素をみんなで協力して抽出し、多様な材料を用いて1つの公園模型を作っていくことを試みました。

はじめに、こども達と話しをしている中で3人全員に共通して、理想の公園には「芝生が欲しい」という考えを聞くことができたため、芝生の配置、形状からとりかかりました。芝生で「スポーツがしたい」、「寝転がりたい」、「お昼寝をしたい」というさまざまな用途が考えられたため、芝生面全体をサッカー場にするのではなく、お友達がサッカーをしている選手を応援する等、好きなことをできるようにスペースをつくることとしました。このスペースにも、ただ空間を用意するだけでなく、ベンチや日陰を作ってくれる高木を配置し、具体的な公園案を考えることができました。

次に、こども達の遊具として、タイヤ遊具、ブランコや砂場、木にはターザンロープを配置しました。ブランコについては、踏み板や囲いの部分に色とりどりのタイルを敷き詰めたり、砂場については通常の砂場用の茶色い砂ではなく白くてキラキラした砂にしてみたりと、模型材料を使いこなし、大人が考えられないような、こどもならではのカラーフルで元気いっぱいな提案をしてくれました。ターザンロープは芝生の位置から遊具内に斜めに配置することによって空間を有効活用することができており、小公園といわれても可能性の範囲を狭めずに大きなターザンロープを配置することは、非常にクリエイティブな発想であると思います。子ども達と話し合っってターザンロープの下部は安全に子どもが遊べるウッドチップのような安全な舗装を施すこととしました。

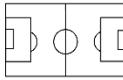
また植栽のポイントは、桜を並木にした点と、教室から桜並木全体を見ることができるよう、校舎側でなく対面に位置させた点、の2点です。小学生にとっても、桜は特別な樹であると感じました。

最後にトイレや池を追加した後、よりカラフルにするため、さまざまな色を用いて1人がけの円形椅子を複数個配置しました。これらを、模型ではおはじきを用いて表現しています。公園模型作成にあたって、私たち学生はあくまでもサポートに徹しました。こども達自身で公園要素やその配置を決定し、「しぜんスポーツカラフル公園」という夢の公園を完成させていきました。ユニークな案が続々と生まれ、内容の濃い1時間となりました。



図 6-19 班の模型を基にした平面図

#### 凡例

	芝生		ブランコ		ターザンロープ
	砂地		ベンチ		サッカーコート
	ウッドチップ		タイヤ遊具		砂場 (白砂)
	常緑樹		カラフルベンチ		魚のいる池
	落葉樹		トイレ		
	サクラ				
	紅葉 (黄)				

#### 4-4 まとめ (C班) 「しぜんカラフル公園」

C班は2年生が1名、3年生が2名と、どのチームより班員が少ない状況でしたが、一人一人が積極的にワークショップに参加し、低学年の子ども達ならではの、元気いっぱいな考えを出してくれ、「しぜんスポーツカラフル公園」という1つの夢の公園を形にすることができた、と感じています。

Kちゃんの「しぜん」(桜の木と蝶々)というコンセプトからは、「公園の緑は自然や生物を守る」という可能性を、Sくんの「スポーツ」(サッカーコート、ターザンロープ)という言葉からは、「市街地の公園でもできることの、可能性の大きさ」を、Oくんの「カラフル」(花々や遊具)というタイトルからは「公園で存在し得る色は無限であるということ」を確認することができ、それぞれ3人が考えてくれたこれらのタイトルは、公園の有する可能性を表す、非常に根本的で、そして最も大切なキーワードであると考えました。

東京初の市街地小公園であり、パブリックスペースの原点ともいえる坂本町公園で、隣接する、歴史ある阪本小学校の子ども達と、これらの公園の可能性を見出すことができたことに、大きな意味を感じています。

“理想の公園を考えよう”という、こども達が対象のワークショップでしたが、私達学生が学ぶことは特に多く、共に公園の果たす多様な役割や魅力を発見することができたと思います。



写真 6-31 C班作業風景



写真 6-30 個人ワーク作業



写真 6-32 模型作成の様子



写真 6-33 模型作成の様子

## 5. D班の計画案

### 5-1 こども達の理想像 (D班)

メンバー 1年生：Sくん、Mくん 2年生：Sくん、Fさん 3年生：Iさん

大学生：奥村征史（4年）、峯田鈴音（4年）、リュウ・エキイ（2年）、斉藤亮介（2年）

Sくん

公園の中心部には芝生の丘が配置されています。遊具の他、この芝生の丘でも遊ぶことができます。芝生の丘の周りはウッドチップや砂を使用し、水・緑・砂のコントラストを具現化したアイデアです。また、公園内に複数の宝物を埋める「宝探し」というレクリエーションを提案し、みんなをワクワクさせ、また来たくなるような仕掛け作りを試みていました。

Y.Sくん

昆虫などの生物に関心があり、生物多様性に重きを置いたアイデアを出してくれました。カブトムシ、カミキリムシ、タガメやテントウムシなどが公園内に生息しています。日本有数のビジネス街である中央区において、生態系を観察することができる環境教育の拠点としての機能を持ち合わせています。学校側とは反対側に、生物の生息環境に配慮したアイデアが光っていました。



図 6-20 D班の子供たちが描いてくれた絵①

Mくん

みんなのこうえんというテーマで坂本町公園の目指すべき将来像を考えてくれました。公園の中心には芝生が広がっています。ここでは小学生だけでなく、社会人の方々も一緒に憩える空間となっています。みんなで楽しい空間を共有することができる公園を想像し、テーマを設定し、アイデアを出してくれたのだと感じました。

Fさん

公園を6つのブロックに分け、各ブロックにテーマを設けたアイデアを出してくれました。石や植栽を用い、坂本町公園のランドマークとなる「阪本」の文字を作成するというユニークな案を出してくれました。自然のエリア、レクリエーションエリア、ランドマークエリアで構成されており、エリアごとに違った魅力があります。一つの公園を複数の視点から楽しむことができ、老若男女、幅広い年代の人々が憩える公園を考えてくれました。



図 6-21 D班の子供たちが描いてくれた絵②

Iさん

ジェットコースター、バンジージャンプやトランポリンなどのアスレチックと畑や花壇などのグリーンインフラが融合したアイデアです。遊具を設置し、レクリエーションの拠点になるとともに環境教育の場にもなります。五感を使い、自然を体感することができる都会のオアシスを考えてくれました。この目指すべき将来像の背景には年齢に左右されず、老若男女、童心に帰り、心から楽しむことができる公園を作りたいという作者の気持ちが現れていると思います。

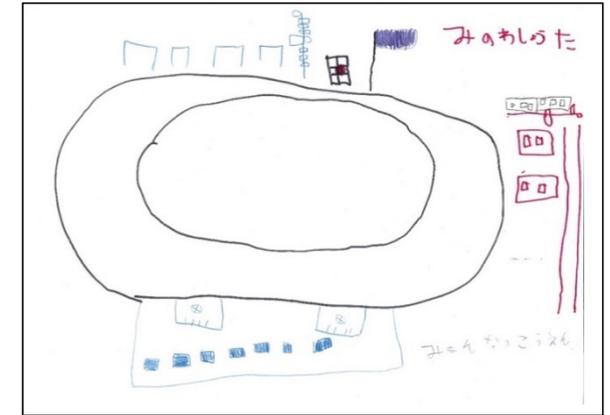


図 6-22 D班の子供たちが描いてくれた絵③

## 5-2 理想の公園の模型



写真 6-34 魚のいる池



写真 6-37 畑付近



写真 6-38 タガメのいる池



写真 6-35 お花見スポット①



写真 6-36 お花見スポット②



### 5-3 計画案 (D班)

D班では、「しぜん公園」というテーマで5人のこども達の自由な発想を取り入れ一つの模型を作成しました。一人ひとり描いてもらった絵の中から、これだけは譲れない大切な要素をそれぞれ抽出し、一つの案にまとめました。一人ひとりのアイデアを一つにまとめる際に、話し合いの結果、「自然」「生き物」「農業体験」の3つをキーワードに模型を作成することにしました。「自然」は、美しい芝、サクラ、池などの自然環境が含まれています。「生き物」は、タガメなどの昆虫類やコイ、カマキリ、バッタ、テントウムシ、カブトムシと触れ合いたいという想いが込められており、「農業体験」は、野菜の植え付けから、育てて収穫するまでを阪本小学校に通っているみんなで行いたいという想いが込められています。

「しぜん公園」は、芝生や原っぱ、砂を基調とした公園になっています。池には、タガメなどの昆虫類が生息しており、原っぱにはカマキリやバッタ、テントウムシなどたくさんの生き物が生息しているような環境にしたいとこども達が楽しそうに話していました。それぞれの生き物の絵を描いたり、スポンジでカマキリの卵を表現したりすることで、公園内にたくさんの生き物が生息している様子を表しています。さらに、都会においてもカブトムシが生息できるように、樹木の数を増やし、緑あふれる空間としたのが特徴です。

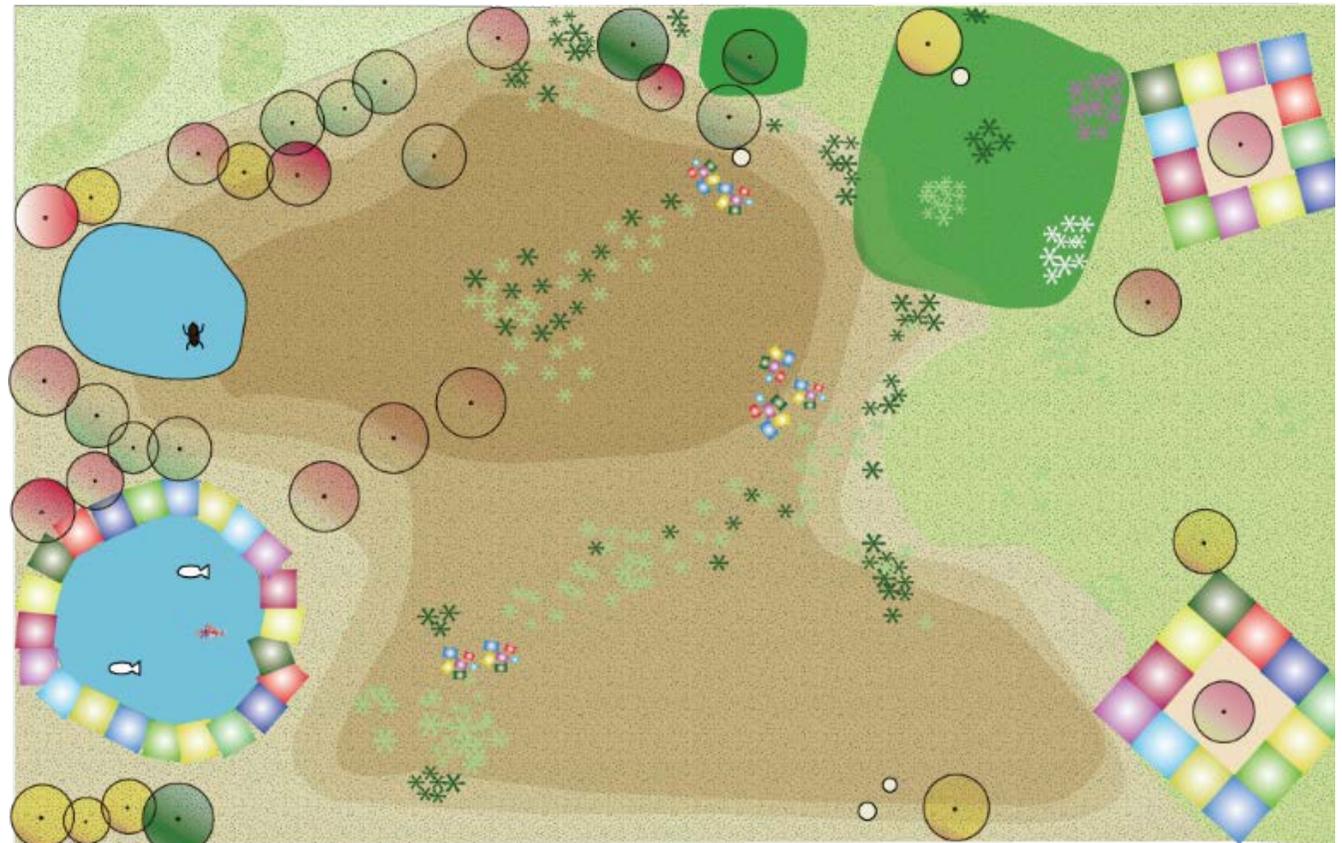
また、公園内にサクラを植え、春になるとお花見ができる空間をつくりたいという思いから、カラフルなベンチを並べてその真ん中に、サクラを植えました。(図6-23の右上と右下)

さらに、公園内に畑を作り、ナスやトマトなどの野菜を育てたいと話していました。みんなで野菜を育て、収穫をし、自分達でつくったものを食べるという農業体験ができる公園を作成しました。(図6-23の右上)

また、真ん中の土や砂の部分や原っぱには宝を隠して、こども達みんなで宝物を探す遊びがしたいとも話していました。こども達が遊ぶことはもちろん、サクラが咲く春には、こどもだけではなく、お父さんやお母さん、お爺ちゃん世代まで幅広い世代の人たちが公園に集まってみんなが楽しめる公園になるよう願いが込められています。

美しい芝生や青々と茂る木々など緑あふれる空間、水と触れ合える環境や、たくさんの生き物と触れ合えるような場所、そして、農業体験もできるような公園となりました。

こども達が考える公園は、遊具がたくさんあるようなものが多いと考えていましたが、遊具で遊び方が決まっているのも楽しいですが、自然の中に宝物を隠して宝探しをする遊びなど、自然を利用して自由に遊び方を考えられる公園も楽しそうだと話していました。都市に暮らすこども達が自然や生き物と触れ合いたいという想いを強く持っていることを感じさせる作品であると思っています。



凡例

- |  |         |  |         |
|--|---------|--|---------|
|  | 常緑樹     |  | 魚のいる池   |
|  | 落葉樹     |  | タガメのいる池 |
|  | サクラ     |  | 砂       |
|  | 紅葉 (赤)  |  | 芝生      |
|  | 紅葉 (黄)  |  | 砂地      |
|  | カマキリのまゆ |  | ベンチ     |
|  | 畑       |  | 宝さがし    |
|  |         |  | 芝       |

図6-23 D班の模型を基にした平面図



## 5-4 まとめ (D班)「しぜん公園」

こども達一人一人が、「公園でこんな遊びがしたい」「こんなものが欲しい」という自由な発想を引き出しながら、楽しく、理想とする公園を描きました。そして、お互いに描いた絵を見せ合い、発表し合いながら、それぞれにおいて大切な要素や譲れない要素を抽出し、グループで一つの公園の模型を作り上げました。

D班が作った「しぜん公園」は、芝生や土や砂を基調としており、樹木により緑の空間が素敵な公園です。桜の周りには、カラフルなベンチを置き、お花見ができる空間を造りたいという想いも込められています。さらに、池には、タガメなどの生き物、原っぱにはカマキリやバッタなどのたくさんの生き物が生息しています。また、公園内に畑が存在しており、野菜を育てて収穫する農業体験ができる公園にしたいという想いも込められています。

D班のこども達とのワークショップを通じて、どんな公園で遊びたいか、どんなものが欲しいか、5人の子どもたちが共通して感じている想いを理解することができました。グループのこども達みんなに共通していることとして、「自然や生き物と触れ合いたい」という想いを強く持っているということです。自然の中で、自由に走り回り友達と一緒に遊びたいというこども達の願いが込められている公園になったと思っています。都会の真ん中の小学校に通っているこども達にとって、緑や水などの自然空間や生き物は貴重な存在であり、常日頃、自然や生き物と触れ合える空間を強く望んでいる様子こども達同士の会話から感じられました。坂本町公園を実現する際に、こども達の思いも組み込んだ夢ある公園になることを私たちは願っています。



写真 6-40 D班作業風景



写真 6-41 D班の作業風景①



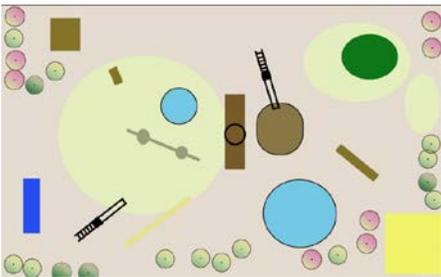
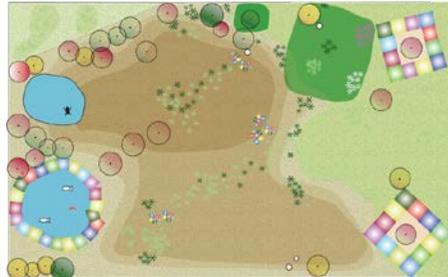
写真 6-42 D班の作業風景②



写真 6-43 D班の作業風景③

VII. 坂本町公園こどもワークショップのまとめ

表 7-1. ワークショップまとめ

題名	A班 自然と未来の混合公園	B班 にぎやか公園	C班 自然スポーツ公園	D班 しぜん公園
平面図	 <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>常緑樹</li> <li>落葉樹</li> <li>サクラ</li> <li>紅葉(赤)</li> <li>紅葉(黄)</li> <li>芝生</li> <li>遊べるオブジェ</li> <li>噴水</li> <li>砂場</li> <li>花がきれいな低木</li> <li>小川・池</li> <li>岩</li> </ul>	 <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>芝生</li> <li>砂地</li> <li>常緑樹</li> <li>落葉樹</li> <li>サクラ</li> <li>池</li> <li>門</li> <li>花火台</li> <li>ベンチ</li> <li>秘密基地</li> <li>ぶらんこ</li> <li>すべり台</li> <li>シーソー</li> <li>トランポリン</li> <li>砂場</li> </ul>	 <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>芝生</li> <li>砂地</li> <li>ウッドチップ</li> <li>常緑樹</li> <li>落葉樹</li> <li>サクラ</li> <li>紅葉(黄)</li> <li>ターザンロープ</li> <li>サッカーコート</li> <li>砂場(白砂)</li> <li>ブランコ</li> <li>ベンチ</li> <li>タイヤ遊具</li> <li>カラフルベンチ</li> <li>魚のいる池</li> <li>トイレ</li> </ul>	 <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>常緑樹</li> <li>落葉樹</li> <li>サクラ</li> <li>紅葉(赤)</li> <li>紅葉(黄)</li> <li>カマキリのまゆ</li> <li>畑</li> <li>魚のいる池</li> <li>タガメのいる</li> <li>砂</li> <li>芝生</li> <li>砂地</li> <li>ベンチ</li> <li>宝さがし</li> <li>芝</li> </ul>
学年	5-6年生	1-3年生、3歳	2-3年生	1-3年生
特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩やかな芝山と芝生広場</li> <li>・公園内を一周する小川</li> <li>・地域の歴史を学ぶ資料館</li> <li>・遊びのオブジェやアート</li> <li>・さくら、お花見、四季折々の植栽</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な遊びと遊具</li> <li>・広い芝生広場と滑り台</li> <li>・花火の発射台</li> <li>・水辺生物のいる池</li> <li>・自然を楽しむことができる公園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い芝生</li> <li>・ターザンロープ</li> <li>・サクラ並木</li> <li>・スポーツや休むことができる空間</li> <li>・カラフルな椅子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生、原っぱ等の自然環境</li> <li>・タガメ、カマキリ等の生き物</li> <li>・農業体験のできる畑</li> <li>・真ん中の山で、宝探し</li> </ul>
共通しているキーワード	<p style="text-align: center;"> <span style="display: inline-block; background-color: #c8e6c9; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <b>自然</b> みどり・水・生き物                 </span> <span style="display: inline-block; background-color: #fff9c4; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <b>遊び</b> 築山・遊具・宝さがし                 </span> <span style="display: inline-block; background-color: #e91e63; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <b>歴史・文化</b> 江戸からの伝統・お神酒所                 </span> </p>			



「なんてたって坂本町公園」(坂本町公園将来ヴィジョン)への意見の反映状況

阪本小学校と公園の共存を実行する

- ・こども園の玄関から坂本町公園が、見通せるようにする。
- ・こども園(0~5歳児)の各部屋が公園に向かって開かれ、明るい楽しい空間となるようにする。(フェンス等へ変更)
- ・遊戯室の前は、活発に遊ぶことのできる空間とする。

広々とした集いの場を創り出す

- ・ラジオ体操 ・花見
- ・まちかどカフェ(みかづき)、トイレ
- ・非常時の避難地
- ・防災トイレ、井戸
- ・かまどベンチ

江戸以来の下町の伝統を継承する

- ・まちかど資料館(みこしの展示)
- ・御神酒所の開設
- ・祭りの開催  
お正月、ひなまつり、端午の節句、七夕、お月見、収穫祭
- ・七草、畑



のびのびと遊び場を創り出す

- ・くもくもアスレチック
- ・ターザンロープ
- ・宝さがし
- ・わくわくオブジェ、カラフルベンチ
- ・ふわふわフルムーン

都市の自然を創り出す

- ・築山 ・広い芝生広場
- ・サクラ並木
- ・四季折々の植栽
- ・保存樹木の移植
- ・七草

みどりと共に、水を活かす

- ・流れ
- ・水辺の植生を豊かにする
- ・七草(江戸園芸の継承)

住民・町会・企業・行政の皆さんが公園の持続的維持を支える仕組みを創り出す

## 2. 公園のイメージ

ひろびろとした芝生広場、緩やかな流れ



写真 8-1 にいじゅく みらい公園（東京都葛飾区）



写真 8-2 学びの森（岐阜県 各務原市）

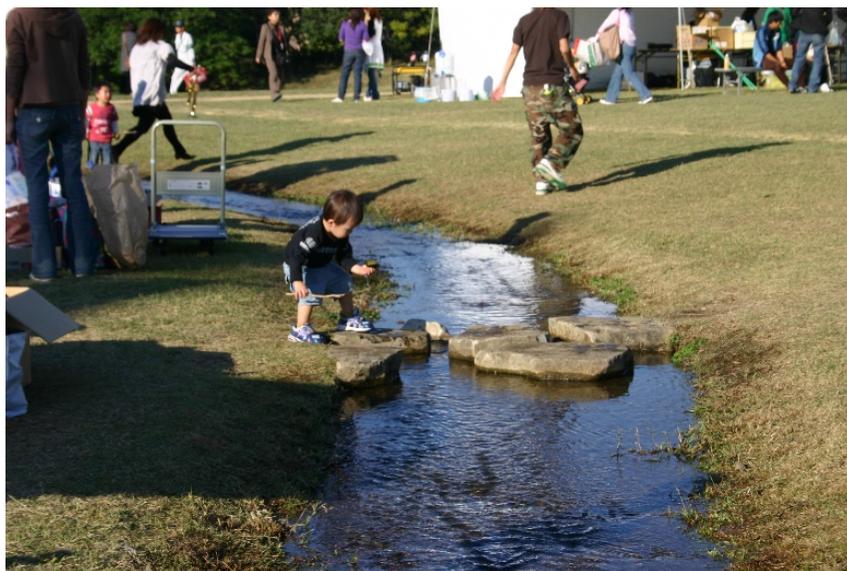


写真 8-3 安全な水辺



写真 8-4 木登り

### 3. 植栽のイメージ

表 8-1 四季を織りなす植栽たち

早春(1~2月)

福寿草(フクジュソウ)



マンリョウ



陽春(3~4月)

沈丁花(ジンチョウゲ)



馬酔木(アセビ)



新緑(5月)

コデマリ



立秋(7~8月)  
ホタルブクロ



キキョウ



ムクゲ



ユウスゲ



晩夏(8~9月)  
酔芙蓉(スイフヨウ)



秋の七草(9月)  
オミエナシ



名月(9~10月)

ムラサキシキブ



落葉(秋~冬)

イロハモミジの紅葉



コナラ・クヌギの黄葉



カンツバキ



ドウダンツツジの黄葉



ホトトギス



表 8-2 公園を支える”地被植物”

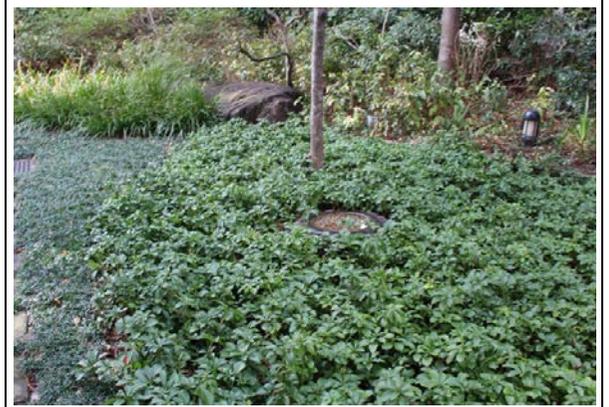
ヤブラン



ツワブキ



フッキソウ



センリョウ



ミズヒキ



## 4. 花暦

表 8-3 四季を織りなす植栽たち

<p>1月 ウメ</p>  <p>ナノハナ</p> 	<p>2月 カンヒザクラ</p>  <p>フクジュソウ 春を告げる花の代表格。</p> 	<p>3月 アンズ</p>  <p>ジンチョウゲ</p> 	<p>4月 ソメイヨシノ 日本人に古くから愛されている桜の中における代表格。</p>  <p>スマレ 強健な植物であり、身近な場所で見かけることが多い。</p> 	<p>5月 ウツギ</p>  <p>シャガ</p> 	<p>6月 ヤマブキ</p>  <p>シモツケ</p> 
<p>7月 アジサイ</p>  <p>ホタルブクロ</p>  <p>ナツツバキ</p> 	<p>8月 ヤマユリ 日本産のユリ。最大級の大きさ。</p>  <p>ヒマワリ</p> 	<p>9月 キンモクセイ 花の時期は1週間ほどと短い</p>  <p>スイフヨウ</p> 	<p>10月 ミズヒキ</p>  <p>ムラサキシキブ</p> 	<p>1月 サザンカ</p>  	<p>12月 スイセン</p>  <p>ツバキ</p> 

## 5. 集合写真



写真 8-5 こどもワークショップ参加者 集合写真

## IX 提言

坂本町公園（日本橋兜町）再整備に向けた提言

——江戸・東京 400 年の伝統の継承と最先端の共存——

日本イコモス国内委員会

文化的景観小委員会



ICOMOS Japan  
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy  
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.  
Tel&Fax: +81-3-3261-5303  
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

2019年 8月 7日

中央区長 山本 泰人 様

## 坂本町公園（日本橋兜町）再整備に向けた提言

——江戸・東京 400 年の伝統の継承と最先端の共存——

文化的景観小委員会主査 石川幹子



坂本町公園（中央区日本橋兜町）は、明治 22 年（1889 年）、東京市区改正設計に基づき、東京における市街地小公園として、最初に整備された由緒ある公園です。市区改正設計における公園整備の考え方は、「衛生に関する巨益」、「首府たるの壮観」、「出火天変の際、人民回避の場所」、「魚蔬の市場として借用」、「車馬の輻集を開通」等で、坂本町公園は近代都市計画における公園の理念を、最初に実現に移した画期的なものでした。

整備された場所は日本橋坂本町警視病院跡で、隣接地は、明治 6 年 3 月（1873 年）に創設された「第一番官立奨学坂本学校」であり、小学校と公園を一体として整備するという考え方が、明治期に実現に移されていたことが分かります。この考え方は、関東大震災後の帝都復興事業における東京市施行の 5 2 の小公園に継承され、更に全国の戦災復興事業における近隣住区の形成に生かされました。2011 年の東日本大震災時にも、坂本町公園は、地域の皆さんの避難拠点として、大きな役割を果たしました。

当初の設計者は、後に日本全国の公園整備を手掛けることとなる長岡安平で、東京府知事楠本正隆の指揮のもと、市区改正設計の理念を実現に移したと思われます。現在、残されている設計図には、色鮮やかに四季折々の梅、櫻、楓、そしてこれを取り囲むように常緑広葉樹の椎が描かれており、中央部は新しい時代の息吹を感じさせる広々とした芝生と築山であり、当時、街路樹として新しく導入されたエンジュが描かれています。

坂本町公園は、関東大震災、そして第二次世界大戦の空襲により壊滅しましたが、その都度、地域の皆さんと行政の努力により再生され、不死鳥のごとく継承されています。有為転変を繰り返す都市において、江戸以来の祭りや、神輿の展示、御神酒所の開設等が、公園を舞台として今日なお活発に継承され、地域を支えており、その意味で、江戸・東京 400 年をつなぐ「文化的景観」と言うことができます。

今般、阪本小学校の建て替えに伴い、坂本町公園の再整備が行われる予定となっており、地元の皆さんや阪本小学校の子どもたちから、様々な夢が寄せられています。なかでも、次世代を担っていく子どもたちの発想は、極めて豊かで、かつ公園が地域のかげがえのない財産となっていることを実感させるものでした（別添資料参照）。これらをふまえ、未来の坂本町公園の再整備について、私どもは次の原則に基づき行われることが重要であると考え、ここに提言いたします。

1. 「文化的景観」として、江戸・東京の歴史的経緯を尊重する。
2. 非常時の避難地として、防災上の配慮を行う。
3. 都市の自然をつくりだす。
4. 広々とした集いの場を創り出し、みどりと共に、水を活かす。
5. こども達が、のびのびと遊ぶ場を創り出す。
6. 阪本小学校と公園の共存に配慮する。
7. 住民・町会・企業・行政の皆さんが公園の持続的維持を支える仕組みを創り出す。

「文化的景観」である坂本町公園の再整備にあたっては、歴史的意義をふまえ、地元の皆さんの御意見を反映し、江戸・東京をつなぐ、確かなメッセージを発信する場となるよう、上記御配慮を賜りたく、お願い申し上げます。

## 資料編

資料 1. 坂本町公園周辺の土地利用（江戸期、明治期）

資料 2. 長岡安平について

資料 3. 阪本小学校新校舎の概要

資料1 坂本町公園周辺の土地利用（江戸期、明治期）

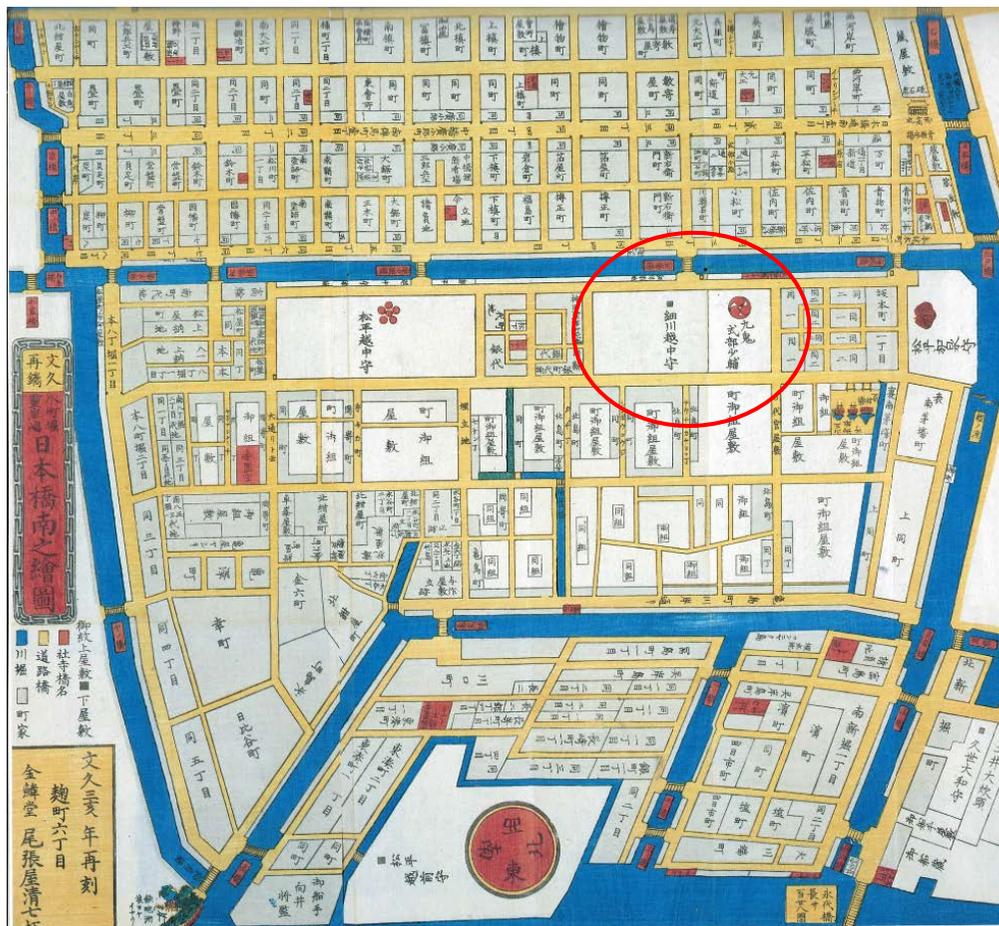


図 文久3年



図 明治17年



序

祖庭長岡安平先生は學究の人でもなく、又舊藩侯の御庭師なる職の人でもなかつた。翁は若年にして深く造園に趣味を有し、而して其師を自然の美造化の妙に求め、普く國內の風景地を跋渉し、また天下の名園を視察研究し、更に多くの古書を涉獵して多年研鑽工夫の功を累ね、遂に斯道の玄旨を自得し、造園の術風景地修飾の意匠に於て其技實に神に入るものがあつた。殊に其の晩年に在つては、技圓熟の極に達し、努めて技巧を避け、自然の風韻其儘を寫出することに専念せられ、佗び寂びたる庭園を好まれたことは、能く人の知る所である。

加之翁は常に時代の趨勢を大觀し、之を其の設計意匠の上に表現し、又深く我が國情民風を考慮して、徒らに新らしきに走らず古きに泥まず、明治維新後の混沌たる我が造園界に立つて毅然として其の指針を來されたことは、我等の常に畏敬措く能はざる所であつた。

如斯翁は我が造園界に於ける先覺者であつた計りでなく、彼の名勝古蹟老樹名木の保存、街路樹植栽等に關しても、夙に他に率先して其の卓越せる意見を發表し、同時に之れが實行に努力せられた。されば此の方面に於ても翁は又一代の先覺者であつたと稱すべきである。

翻つて思ふに、翁が我が東京市の公園築造に關係せられしは、明治十三年以來のことにて、時に其の俗務を厭ふて職を退き、また懇請を容れて職を見られしこと再三であるが、大正三年に至るまで、實に前後三十有餘年の久しきに亘つた。されば、今日我が東京市の大小公園の築造、史蹟名勝天然紀念物の保存、及街路樹の植栽等、概ね翁多年の努力の賜に依るものである。

又翁は逓信省の營繕事業をも囑託されて、各地の官舎庭園築造を設計監督せられ、更に公務の餘閑自ら進んで知人の造庭、名勝風景地の修飾等に助力幹旋せられ、また地方の公園設計及個人邸宅の造庭を依頼せらるゝや、其の趣味性に合致するものあれば、利得を度外視して熱心に設計營造せられたものが尠くない。於茲、是等公園及庭園設計の草案、意匠圖、造庭仕様書等の殘存せる

もの、或は新聞雜誌等に寄稿せられしものを蒐集して、翁が造庭に捧げられし尊き一生を記念する爲め、之れを編纂上梓したい希望で、其の協議に預かつたことも一再度なかつた。然るに實際に於ては、翁の事業は専ら其の趣味性より發し、臨機の創意に出でしものが多い計りでなく、恬淡水の如き翁は、其の復寫若しくは控書の如きも悉く之れを保存され居らず、心の赴くまゝに之を設計し、築造し而して之を樂まれしもので、世の學者の如く之れを纏めて公にする等の企圖は、翁に於ては夢想だにせられなかつた所である。故に晩年に及び、知人の切なる勸説に従つてこれが編纂の意を起されたが、既に散逸せる資料の蒐集意の如くならず、爲めに荏苒今日に到つたのであつた。然るに這回翁の一週年に當り、令嗣隆一郎氏先考の遺志に基きて、其の墳墓の營造を極めて簡素にし、其の餘剰を以て本遺稿を刊行し、廣く翁生前の關係者に頒布せらるゝに當り、之れが編纂を予に囑せられたのであるが、此の編纂計畫に際して誠に遺憾此上なきことは、始終翁に附隨して影の像に添ふ如く助手として其の事業を助け來つた、田中眞次郎君が、翁に先ち大正九年に物故せられしこ

とである。爲めに近親の方々も、我々教を受けた者も、翁の御事業の詳細に關して知る處極めて薄く、殊に遺稿整理に當り、夫が何れの設計なりしや、將又實施せられしや否やの點に關しても不明のもの多く、又翁の手記あり口授の筆記あり、筆者も異り起草の年月も定かならざるものが尠くない。されば此處に編纂した所ものは、只僅かに翁の面影を偲ぶ片鱗たるに過ぎない。殊に設計圖の如きは極彩色の極めて美しいものが多かつたが、其れを縮寫してコロタイプ版としたので、原圖の妙處を發揮すること能はず、僅かに其の輪廓を寫出するに止まり、又部分的圖案の如きも悉く毛筆彩色畫であつたが、之れも縮寫の必要上線書とするの已むなきに至り、又數多き遺稿中僅かに其の一部を選択編輯するに過ぎなかつた等、數へ來れば、編纂上遺憾の點が尠くない。是等に關しては、茲に謹で故翁に謝すと同時に、大方諸彦の御諒恕を仰ぎたい。聊か蕪辭を列ね以て序言に代へる次第である。

大正十五年十二月

### 資料3 阪本小学校新校舎の概要



一番校としての伝統と誇りを未来につなぐ風格ある学び舎  
 ～地域との繋がりのなかで伝統文化・環境を学び、子どもたちの  
 “心と体”をのびのびと育み、最先端の学習を目指す一番校～

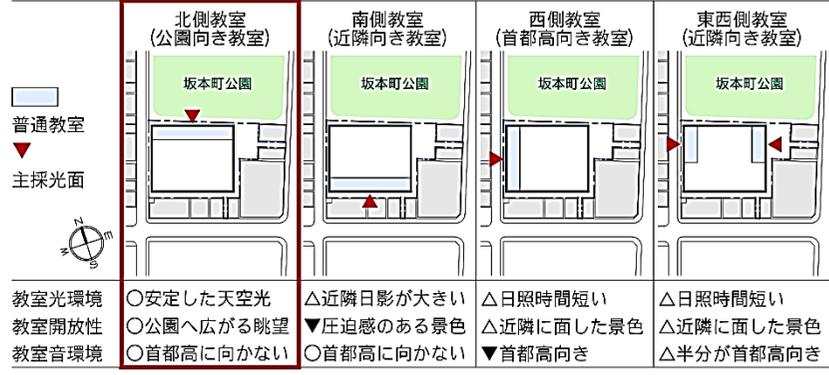
阪本小学校は、「第一大区第一中学区第一番官立小学校阪本小学校」として、「一、一、一」を冠した唯一の学校であり、都市公園の先駆けである阪本町公園にも按ずる、希有な伝統と特徴的な公共空間を有している。そして、本校のある豊町・茅場町は、銀行・証券取引の発祥の地であり、日本経済の最前線で時代を切り拓いてきた地域である。

教育においては、日本の伝統や文化に触れる「伝統文化理解教育」、日本唯一の金徳街という特徴を活かした「金融教育」などを地域とともに実践している。これまでの140年という長い年月のなかで培ってきた「一番校と街の伝統と誇りを未来へとつなぐ」、ここにしかない学校づくりを推進する。

阪本小学校 基本計画概要

阪本小学校新校舎の概要

普通教室の配置比較案・・・各案共通：2校分6階建てで検討



普通教室の配置比較案

階数	地下1階／地上6階
高さ	約37.8m
敷地面積	約3,520㎡
建築面積	約2,400㎡
延べ面積	約13,620㎡

(資料：中央区 提供)

## なんてたって坂本町公園～坂本町公園こどもワークショップ～

開催日時 2019年 6月 16日  
12時～16時

場所 中央区立阪本小学校仮設校舎

主催者 日本橋七の部連合町会  
(兜町町会、茅場町一丁目町会、茅場町二・三丁目町会)

指導 中央大学研究開発機構 石川幹子

コーディネーター 一般社団法人まちふねみらい塾

協力 中央区環境土木部水とみどりの課、  
中央区立阪本小学校、阪本こども未来塾、  
平和不動産株式会社

参加者 阪本小学校小学生1年生～6年生  
中央大学工学部人間総合理工学科学生

報告書の作成

責任者	中央大学研究開発機構	石川幹子
編集スタッフ	峯田鈴音	大木茉由
	奥村征史	川島和馬
	寺嶋太一	長塚瑞穂
	宮本真優	横山紗英
	奥平千尋	黒島綜一郎
	古沢萌加	崎山真由
	杉山直暉	萩原和津
	前田優里香	松本彩

模型製作者	峯田鈴音	大木茉由
	奥村征史	川島和馬
	寺嶋太一	長塚瑞穂
	宮本真優	横山紗英
	奥平千尋	黒島綜一郎
	古沢萌加	崎山真由
	杉山直暉	萩原和津
	前田優里香	松本彩

## 編集後記



峯田鈴音

ワークショップを通じて都市に暮らす子供たち皆が、公園に自然や生き物を求めているということを知ることができました。子ども達の夢や自由な発想が実現される公園になると嬉しいです。



川島和馬

「こどもWS」ということで小学生と一緒に坂本町公園の未来を考える貴重な経験でした。こども達は公園でしたいことなど夢を語っていてその夢が叶うと良いなという思いでまともに取り組みました。



宮本真優

子どもたちの斬新なアイデアから、公園に対してどんなことを求めているのかを直接知ることができ、学生と子どもたち双方でとても有意義なワークショップになったと感じています。



大木茉由

日本で最初の小公園という歴史ある坂本町公園の再生に携われたこと大変嬉しく思います。ワークショップを通して、住民の方々の向き合う姿勢に非常に感銘を受けました。



寺嶋太一

未来の坂本町公園を考えるワークショップに参加して、子どもたちの意見が聞けたことは貴重な体験でした。子どもたちの理想の公園が東京都内にもっと増えたら良いと改めて考えさせられました。



横山紗英

スポーツや休憩の場所、生物生息空間や農業等、公園が有する可能性の大きさを子ども達と一緒に実感することができました。準備から編集まで、楽しく、そして勉強となる2か月間でした。



奥村征史

ライフスタイルが変わる中、子ども達が公園に求めている要素の再確認、そして人々の意見を具現化し、笑顔やオアシスを生み出す仕事の素晴らしさや意義を再認識する貴重な機会になりました。



長塚瑞穂

ワークショップを通して、子供たちが意見を聞いて、子どもだった頃を思い出しました。いろんな意見が出て、話し合いながら模型を作ることができて、楽しかったです。

---

発行日 2019年8月7日

---

発行 中央大学研究開発機構  
グリーンインフラ研究室  
Laboratory of Green Infrastructure,  
Research and Development Initiative,  
Chuo University

---

編集 峯田鈴音 大木茉由  
奥村征史 川島和馬  
寺嶋太一 長塚瑞穂  
宮本真優 横山紗英  
奥平千尋 黒島綜一郎  
古沢萌加 崎山真由  
杉山直暉 萩原和津  
前田優里香 松本彩

---